

2014年度 法人本部事業報告

法人の由来

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」 聖書

1. 基本理念

「栄光園」の由来に従い、私たちの創り主である「神様を愛し」、創られた私たちの「隣人を愛する」ことにより、神様の栄光をあらわす。すなわち、法人に関わる子どもたちが互いに愛し合い思いやりを持って、心豊かに正しく成長することができるよう子ども・家庭・地域社会を支援する。

2. 事業目的

私たちは、キリストの愛と信仰にもとづき利用者の尊厳を守り、サービスの提供については利用者の意向を尊重した創意工夫による総合的な養育支援を行い、利用者が心身ともに健やかに成長することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

第1種社会福祉事業：児童養護施設の設置経営、乳児院の設置経営

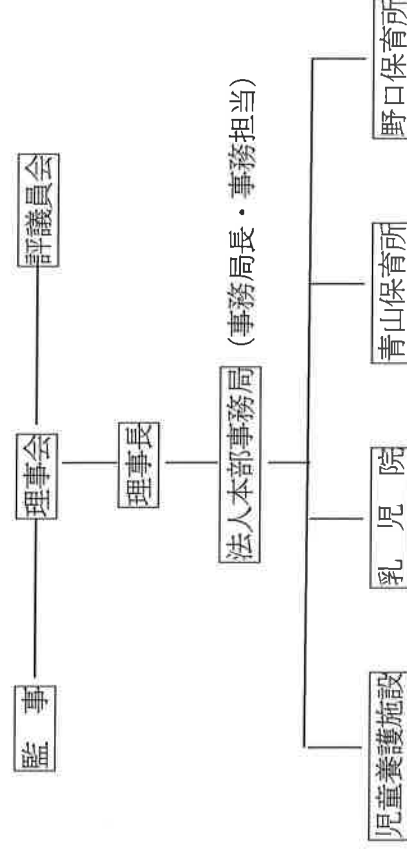
第2種社会福祉事業：保育所の設置経営

また、地域の養育支援ネットワークの一員として、福祉の街づくりに力を尽くす。

3. 基本方針

本法人は、実施する社会福祉事業の主たる担い手として確実、効果的かつ適正な事業を遂行するため、法人および施設の経営基盤強化を図るとともに提供する福祉サービスの質の向上、並びに事業経営の透明性の確保に努める。

4. 法人・施設の組織図



5. 役員（理事・監事）、評議員、施設長、法人事務局（2015年5月28日）

1) 法人本部 別府市南荘園町3組 児童養護施設 栄光園内

2) 役員

理事長	友永 丈一				
理事	池田 康雄	安部 保	豊永 家壽子	山名 睦子	
	江口 敏一	齋藤 真行			
監事	吉本 安宏	滝口 真			
3) 評議員	友永 丈一	池田 康雄	安部 保	豊永 家壽子	
	山名 睦子	江口 敏一	齋藤 真行	平野 八郎	
	熊谷 登喜子	長野 哲也	本庄 智宏	山本 美晴	
	細井 勇	平野 紀美代	小久保 次郎		
4) 施設長	児童養護施設 栄光園	施設長 江口 敏一			
	乳児院 栄光園	院長 熊谷 登喜子			
	保育所 青山保育所	所長 小久保 次郎			
	保育所 野口保育所	所長 本庄 智宏			
5) 事務局	法人本部 事務局長	江口 敏一			

事務員 桑野 誠 得能 美弥

6. 経営の重点実施項目と達成

1. 基本理念の確認と徹底

- ① 法人の事業に携わる職員すべてが、経営理念、運営方針を理解し、子ども・家庭の福祉社
会が実現できるよう事業計画書の配布を始め、具体的な事業展開を進めてきた。
- ② 各施設におけるサービスの質の向上をめざし、子どもたち一人ひとりが愛し合い、思いやり
を持って、心豊かに成長することができるよう諸会議を通し支援姿勢の検証を進めてきた。
- ③ 職員教育によって、その資質を高め、多様な子どもたちのニーズに応えられるようにした。
- ④ 地域と施設の有機的な連携のもと、子ども・家庭の複合的なニーズに安心して応えられる支
援サービス体制の充実を図ってきた。
- ⑤ 地域に必要とされる子ども・家庭福祉サービスの展開が実践されているか客観的な視点で評
価を受け、サービス改善に資することができるよう外部評価を積極的に活用する。

2. 経営基盤の強化

法人本部の組織を整え、4施設が一体となって利用者と地域の子とも家庭福祉サービス提
供の強化を図るために、法人全体の組織体制を強化し、職員意識の理念に対する明確化を
図った。また、共通基盤の上での意識の統一を図り、経営の方向性を確認するため、毎月
理事長および各施設長による施設長会を開催した。

また、2013年4月より乳児院の院長として熊谷登喜子が就任し、新たな体制の元で、乳
児養育にふさわしい環境整備、職員組織と資質の向上、小規模化に向けての体制作りを実

施してきました。

また、児童養護施設は、5棟すべてが小規模グループケア体制となり、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、職業指導員の専門職を配置し、小規模加算による財務状況の改善と併せて養育体制の大幅な改善に取り組むことが出来た。

3. 事業経営の透明性の確保

事業経営の透明性を図るために、理事会報告の閲覧を可能にし、財務諸表も広報誌「栄光園だより」に掲載して、利用者中心のサービス提供環境の構築と地域社会の理解と協力が得られるように努めてきた。また、この目的推進のためにホームページを開設し、栄光園だよりも閲覧できるようにして、事業状況の情報開示を進めてきた。

7. 法人本部事業の実施

1) 理事・評議員会の開催

年間事業計画の策定、実施報告も含め、理事・評議員・監事の意見をもとに経営を進めるため、必要に応じて理事・評議員会が開催された。

① 理事会の開催 次の通り3回開催した。

第1回	2014.	5. 27 (火)	出席 7名	欠席 0名
第2回	2014.	11. 26 (水)	出席 5名	欠席 2名
第3回	2015.	3. 30 (月)	出席 6名	欠席 1名

評議員会の開催 次の通り3回開催した。

第1回	2014.	5. 27 (火)	出席 12名	欠席 3名
第2回	2014.	11. 26 (水)	出席 11名	欠席 4名
第3回	2015.	3. 30 (月)	出席 13名	欠席 2名

監事の監査

2014. 5. 2 (土)、5. 25 (月)、5. 26 (火)、5. 27 (水) の4回にわたって、2014年度事業および、財務状況についての監査を実施した。

2) 環境整備

① グランドの花壇に水道設置

栄光園グラウンドの北東端に別府ロータリークラブ様より寄贈された花壇がある。付近に水道がなく植えつけ、散水の際には、乳児院から水を汲んでくるか、長い延長ホースを継ぎ足して灌水を行う必要があり、花壇の近くに水栓の設置が求められていた。今回、水栓を設置することによって花壇の花のみならず、植栽やグラウンドでのスポーツの際に必要な水源を確保することが出来るようになった。

8. 職員配置

2015年3月31日

事業所	職種	施設長	事務	児童指導員	保育	保育補助	看護	心理	栄養	調理	用務	合計
児童養護施設		1	2	9	10	2	-	1	1	4	-	30
乳児院		1	2	4	11	1	3	-	2	5	1	30
青山保育所		1	-	-	19	-	-	-	1	2	-	23
野口保育所		1	-	-	14	-	-	-	1	1	-	17
合計		4	4	13	54	3	3	1	5	12	1	100

9. 後援会等の活動状況

後援者等	賛助会員	寄付（一般・建築）	物品	招待・奉仕
人数	50人	59人	112人	10人
回数	97回	79回	161回	15回
金額	1,985,000円	7,294,302円		

10. 「栄光園だより」の発行

第95号～第98号 年4回発行（4月、7月、10月、1月）

編集：広報誌編集委員会（各施設長で構成）A4サイズ（6～8ページ）

発行：1,000部/回、カラー印刷、

内容：法人全体のこと（経営と財務状況の報告、賛助会員・寄付金品者・イベント招待者等の協力者）、各施設の理念と事業・行事内容等を掲載してきた。

2014（平成26）年度 児童養護施設 栄光園 事業報告書

2014年度の聖句

「いと高きところには栄光、神にあり、地には平和、御心に適う人にあれ。」 聖書

1. 施設運営の基本方針

1. 子どもの健全な養育支援を最優先とする。

- ① 家族的養護をめざした小規模グループケアを推進し、愛着障害の影響緩和に努める。
 - ② 人権が守られ、個性が尊重され、学ぶ意欲が高められ、安全で快適な生活環境となるよう努める。
 - ③ 支援の達成目標を「生活の自立」「経済的自立」「家庭の形成」とする。
 - ④ 保護者との関係の再構築・卒園後の家庭形成の支援に努める。
 - ⑤ 行政機関・教育機関・医療機関・ボランティア・地域の方々等との連携・協力体制を整える。
2. 職員の養育支援に関する専門知識・専門技術・倫理観など専門性の向上に努める。
3. 経営環境を整え、地域の子育て支援の核となる。

2. 重点実施事項

- ・ 児童養護施設の中長期計画の策定
- ・ 小規模ユニットケアでの子どもたちの生活基盤の確立とさらなる地域小規模ユニット施設化の推進
- ・ 安全・安心・快適な生活環境の確立
- ・ 養育の基本姿勢を堅持しつつ、すべてのユニットが栄光園コミュニティとして機能できる組織・体制づくりの実施
- ・ 子どもたちが好まじい人生観・価値観形成ができるような養育環境と職員対応能力の向上
- ・ 子どもたちの未知のものに対する好奇心と学習意欲を高める養育
- ・ 子どもたちが巣立つうえで欠かせない愛着形成とコミュニケーション能力を高める養育体制の確立
- ・ 障がい児養育を重点的に進めることができるような専門性の高い職員組織体制の確立
- ・ 地域での子育てが可能となるファミリーホームや地域小規模施設の具体的な検討・実施
- ・ 総合的に里親支援ができる職員の専門性の確立 ⇒ 里親支援専門相談員を中心に
- ・ 自立に向けた専門的な職業指導体制の確立 ⇒ 職業指導員を中心に

3. 2014年度の事業の具体的取り組み

*5棟すべてが小規模化での経営

栄光園の実施してきた小規模化は全国600ある児童養護施設の中でもユニークな部類に入る。

1棟6～8名の子どもたちを3～4名の職員で養育し、すべての棟で24時間子どもたちともども起居している。その子どもたちを養育しているのは調理職と養育職の垣根を取り払った職員集団であること、食事は同じ献立ながら、各棟独立して材料から調理しており、おやつ作りや外出泊行事の企画も含め日常生活費も棟毎の予算管理を試行錯誤しながら行ってきた。特にオゴウホームは地域小規模施設を目指して食材の調達も独自に行ってきたが、全体で3名の退職職員が生じ、職業指導員を夜勤のローテーションに組み入れざるを得ず、地域小規模施設の申請ができなかった。

*各種専門職の充実

養育に携わる専門職として、養育担当のほか、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、職業指導員、有資格の臨床心理士や管理栄養士、社会福祉士の実習指導が可能となった社会福祉士、学校教育機関の経営に協力している学校評議員などがあり、精神保健福祉士等の必要な専門資格取得にも通信教育に取り組み職員集団がある。専門性を高めるための外部講師による研修も継続している。*財務上の改善

小規模化を進めてきたことと行政的に要望されている各種専門職を配置したことで、職員数は30名に達したが、各種加算が得られ、財政状況は好転してきた。しかし、改築・改修工事で自己資金が十分とは言えない状況で、14年前の本館改築での借入金の返済期間が6年残っていること、建物設備の減価償却への対応、地域小規模施設開設の準備等を考えると予断は許されない。

*養育支援の取り組み

施設の小規模化は、家庭的な養育スタイルにより近づく取組みであり、食事形態の変化に伴う食育の効果は、養育の重点目標である愛着形成・コミュニケーション能力の向上の点でも大きい。

しかし、職員の勤務体制が日中は2人体制、深夜から早朝は一人体制であり、職員の隙や死角の中で性加害・被害事故が発生した。心理士の企画・継続している「応援の時間」（毎月楽しかった

市ジョースタイル	3名	4名	2名					1名	
事由	母の入院(1) 母の仕事(2)	母の仕事(2) 母の入院(2)	母の仕事(2)					冠婚葬祭	

ショートステイは、別府市、大分市、国東市、日出町、臼杵市、由布市等と利用契約している。

2) 定例行事・諸会議等

毎月の行事：金曜礼拝、誕生会、児童会、避難訓練

毎月の会議：職員会議

・スタッフ会議：月2回

・運営・リーダー会議：月1回

・ホーム長・専門職会議：月1回

・食事委員会：月1回

毎月の研修：園内研修：月2回（講師：斎藤真行牧師）

3) 月間行事状況

月	日	行事内容
4月	1日	辞令交付式
	3日	養護お花見
	5日	東九州短大 施設見学 (30名)
	8日	各校始業式
	9日	理事長訓話
	10日	青山中学校入学式
	11日	福岡県社会福祉会第三者評価者視察 南立石小学校入学式 農業大学校入学式
	14日	南立石幼稚園・真愛幼稚園 入園式
5月	15日	職員会議
	16日	児童会
	28日	職員会議
	8日	県養協合同視察研修 (鳥取こども学園、岡田c w)
	10日	シェイザワールド合同練習会 (平和園)
	13日	職員会議
	17日	S B I 研修会 (大阪府、藤本)
	24日	青山中学校体育祭
	27日	職員会議
	25日	青山中学校体育祭
27日	職員会議 理事会・評議員会	
29日	南立石小学校 6年修学旅行	
6月	3日	職員会議
	8日	シェイザワールド合同練習会 (栄光園)
	9日	害虫駆除
	10日	九州ブロッック大会 (佐賀県 三重野c w、野田c w、原田c w、横大路c w)
	15日	シェイザワールド合同練習会 (光の園)
	21日	マツモトホーム行事
	24日	職員会議
26日	基幹的職員研修 (大分市、藤本c w)	

7月	2日	職員会議	
	6日	シェイザワールド合同練習会（ビーコンプラザ）	
	9日	栄養士調理員等研修会（別府市 佐藤栄養士）	
	12日	中高生対象 性研修（平和園）	
	14日	職員会議	
	16日	中児相管轄 児童調査	
	18日	各校始業式	
	21日	シェイザワールド合同練習会（ビーコンプラザ）	
	8月	4日	園内研修（救急法）
		6日	園内研修（性研修）
6日		中津児童相談所児童調査	
16日		グレースホームの集い	
17日		みらいの森 イングリッシュキャンプ（さいたま市、児童2名参加）	
24日		ナベサダコンサート	
25日		オゴウホーム行事	
28日		マツモトホーム行事	
9月		1日	各校始業式
		4日	大牟田児相館内児童養護施設等視察 14名
	9日	西日本研修（岡山県 太田c w、荒金c w）	
	17日	職員会議	
	18日	新任研修（中津市、太田c w、東條c w）	
	24日	第三者評価訪問調査	
	29日	日田市社協民生委員視察（30名）	
	30日	小舎制養育研修会（福島県 施設長、横大路c w）	
	10月	4日	南立石小学校運動会
		7日	職員会議
10日		安全委員会全国大会（岡山 井生心理士）	
15日		施設内研修 養徳園 福田施設長	
21日		職員会議	
24日		県監査	
28日		全国児童養護施設長研修（京都府 施設長）	
11月		1日	ふきのとう10周年コンサート
		9日	サッカーフュエスティブアル
		11日	職員会議
	22日	マツモトホーム行事	
	24日	オゴウホーム行事	
	23日	おおいた子ども支援ネット・設立記念講演	
	25日	職員会議	
	12月	6日	ミュージックカーニバル招待
		8日	職員会議
		9日	おのえ部屋慰問
12日		別府国際観光港 イルミネーション点灯式招待	
13日		クリスマス祝会	
18日		職員会議	
21日		別府ライオンズ・ライオネスクラブ、自衛隊餅つき奉仕	
24日		各ホームクリスマス会、各校終業式	
31日		大晦日	
1月		1日	年賀式（10時）
	6日	オゴウホーム行事	
	8日	各校始業式 市法人監査	
	14日	職員会議	
	16日	県養協トップセミナー研修（園長、岡田c w）	
	24日	中島先生 摂食指導	

26日	職員会議	おとな向けグループワーク (荒金c w、井生心理士)
28日	中児相主催 私立高校受験	
3日	職員会議	
9日	ウエストH・キヤサリンH合同行事 (福岡市)	
14日	県養協 ふれあい交流会	
18日	職員会議	
23日	大分県児童養護施設職員合同研修会	
26日	オゴウホーム 行事	
28日		
1日	卒園生・退職者を送る会	
5日	園内研修 横須賀基督教社会館 館長 岸川洋治	
8日	キヤサリンホーム行事	
10日	公立高校受験 家族支援に関する合同研修 (中津市 岡田c w)	
11日	職員会議	
14日	南立石幼稚園卒園式	
20日	真愛幼稚園 卒園式	
21日	南立石小学校 卒業式	
25日	職員会議	
26日	各校終業式	
2月		
3月		

4) 実習生、ボランティアの受け入れ状況

学生実習

- ・別府大学、別府大学短期大学、西南女学園短期大学、福岡県立大、久留米大学、筑紫女学園短期大学の学生の「基礎実習」(ボランティア的な要素も含め現場体験をする実習)および「社会福祉援助技術現場実習」(社会福祉士資格取得に必要な実習)に協力した。
- ・福祉専門職の保育士や社会福祉士養成の現場実習に協力した。
- ・自発的に現場体験を通して福祉現場の状況を理解し、将来保健福祉の分野に進もうと志望する学生については、状況の許す限り自主実習を受け入れてきた。
- ・派遣実務研修をとして、児童養護施設森の木の職員を受け入れた。

2014年度 実習生受入

大学名	実習生	期間
別府大学短期大学部	小田 愛	7月30日～8月9日
	小平 友恵	9月1日～9月11日
溝部学園短期大学	田中菜鶴 (保育実習)	7月30日～8月9日
	後藤真平 (保育実習)	8月10日～8月20日
	神野怜央 (保育実習)	8月21日～8月31日
筑紫女学園短期大学	尾崎円香 (保育実習)	3月2日～3月11日
	丸林沙妃 (保育実習)	3月2日～3月11日
西南女学院短期大学	岩崎遥 (保育実習)	8月25日～9月4日
	砂川蘭 (相談援助実習)	3月4日～3月14日
北九州保育専門学校	世良凌加 (保育実習)	6月11日～6月21日
	山根辰悟 (保育実習)	6月11日～6月21日
西日本短期大学	山本楓 (保育実習)	11月10日～11月19日
	小関奈穂 (保育実習)	11月10日～11月19日
中央児童相談所	熊野真二郎 (県職施設実習)	10月9日～10月10日
東部保健所	酒井愛弓 (県職施設実習)	10月9日～10月10日
児童養護施設 森の木	林貴子 (派遣型心理実習)	10月20～10月23日

ボランティア

- ・有形、無形のボランティア活動は、子どもたちの成長と職員の子どもに対する養育態度や勤務姿勢にプラスに働く。子どもたちに対する学習指導や社会、芸術に接する上でのボランティア活動

の子どもの成長に資する影響は計り知れない。また、ボランティアを受け入れることから子どもたちや職員がボランティアをすすめる集団へと成長することも考慮し、今後とも、可能な限りボランティア活動を受け入れるよう努力する。

2014年度ボランティア受け入れ活動状況

ボランティア及び支援者	活動状況
安東税理士事務所（安東秀典様 井上せつ子様）	学習指導、
別府中央ライオンズ・ライオネスクラブ	花壇の整備・餅つき
別府ロータリークラブ	花壇の整備、芋掘り体験・収穫招待
陸上自衛隊別府駐屯地	餅つき、カレーライス会食、演奏
ティム・ディック(カナダ人)	文化交流
エッチ美容室	七五三着付け
木村写真場	七五三写真撮影
電力総連	レクリエーション交流
APU学生	ベトナム文化体験
おのへ部屋	力士との交流

5) 養育支援の取り組み及び課題 家庭的養護

家庭的養護機能における小規模・ユニット化の推進を受け、本体施設は完全5棟の小規模ユニット体制となり2年が経過した。特に、各小規模ユニット内で全調理し、食事を提供していることに関しては、家庭的な生活スタイルにより近づく大きな試みであり、児童の「食」に対する興味・関心や、ケアワーカーが調理することにより、児童との関係においても「食」を通して、効果的な関係の構築が図れたと考えられる。また、現在、食材発注に関しては栄養士が行っているが、今後は各棟で食材購入の実践を試みていきたいと考える。

昨年度より、地域小規模グループホームの開設準備を行ってきたが人材確保の課題により見送りとなった。小規模化特有の課題である他ホームとの関係の希薄化や孤立化、長い拘束時間、夜勤回数の高さ、職員数も限られていることにより脆弱性が要因として考えられる。離職の防止、長く働き続けられる職場環境づくりが課題であり、職員配置の改善、勤務体制の見直し、孤立化を防ぐための具体的な取り組みを実践していきたいと考える。また人材育成のための養育の技術や方法論の向上、施設のマネージメント力の向上を図っていききたいと考える。

自立支援

愛着形成、コミュニケーションスキルの向上を養育支援の重点目標として、特に小単位による個別ケアの充実を図った。生育歴や発達、成長段階に応じ自立支援計画を作成し計画的な個別支援を実施、また子どもも個別課題と集団課題に配慮した支援の実施、食事場面による「楽しい団欒」、個々のニーズに即した支援を重視することにより、情緒の安定や学力の向上、社会常識及び規範意識の向上、自尊心・自立心の向上に効果的に影響したと考える。

今後の課題として小単位の養育体制ではあるが、施設がゆえに集団生活の維持や社会常識及び社会規範の習得、社会への自立のために施設単位、ホーム単位のルールや日課など管理的・指導的な支援になりやすい傾向にもある。「家庭的養護と個別化」そして「あたりまえ」の生活を保障するために、様々な問題を抱える個々の子どもたちにも適した養育支援を行うために、管理的・指導的になりやすい養育システムを定期的に検討、検証し改善していきながらさらなる個別ケアの充実を図りたいと考える。

専門的ケア

被虐待児童、発達障害を抱える児童への施設ケアの充実を図る為、施設心理士との連携や学校、医療・療育機関との連携に努めた。特に発達障害を伴う児童に関しては定期的に学校、医療・療育機関と具体的な支援、ケアの方法を検討、実践を図ることで支援体制が充実し施設のケア、学校生活に反映している。

今後の課題として、入所児童の多くが被虐待児童、発達障害、愛着障害を伴っており、それぞれに問題も多様化、複雑化しているため個々の発達や特性に適した施設ケアを実践が必要である。よって、ケアスタッフアレンスの定例化やスーパービジョン体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術を向上させる取り組みを行い、専門的な施設ケアの充実を図っていききたい。

家族支援

家庭支援専門相談員（FSW）を中心に入所児童が保護者との交流、家庭統合に向けて児童相談所との連携や保護者への連絡等により可能な限り、面会、外出、外泊等の交流機会を設け家族支援の実施を行った。良好な親子関係が維持、継続でき、家庭復帰に向けて計画的な支援が可能なケースや虐待等により親子関係の再構築が難しいケースがあるなか、特に親支援をいかに充実させ家庭統合に反映させるかが今後の課題といえる。親支援に関しては、ケアワーカーそれぞれが、専門的な技術を身につけることが必須であるため、研修や経験を重ねていき、親支援への具体的な取組を行っていきたいと考える。また、他機関と連携を図り家庭環境の調整や家庭訪問、育児・養育相談の充実、再統合に向けての親子訓練の活用など具体的な取組を実施していきたいと考える。

研修関係

小規模化の充実や施設機能の地域分散化に対応するために、小規模、地域小規模、本体施設の多機能、高機能に取り組み施設への見学や講師を招いての施設内研修の充実を図った。小規模化における課題への改善や小単位における養育支援への効果的な取組、地域分散化を実践していくうえでの基本的な養育体制、支援方法について学び、有益な研修機会となったと考える。

今後の課題としては、子どもの権利擁護に関する研修の実施や愛着・発達障害に関する勉強会の充実、そして、発達に遅れのある児童の多くが思春期を迎える施設事情もあるため、性教育、性問題に対応するための研修や学習会などを充実させていきたいと考える。

関係機関連携・地域支援

学校や医療・療育機関、児童相談所の児童が主体的に関係する機関とは定期的な相談、協議、連絡会等を定期、随時に行っている。しかし、地域の関係機関・団体とのネットワーク化や地域との交流、地域支援に関しては乏しい状況である。そのため、地域の定期的な連絡協議会への参加や地域内の他組織との連携の強化、地域全体で課題となっている点について関係機関・団体へ積極的に問題提起し解決に向けて協働し、子どもの対する養育・支援の一環として具体的な取組に努めていきたいと考える。

事故防止と安全対策

施設内の小規模化により事故発生対応マニュアルや衛生管理マニュアルの改訂を行った。しかし、全職員で周知徹底できていない状況である。各マニュアルの周知徹底を図り、災害や事故に備え危険個所の定期点検、事故防止策、安全確保策の実施状況や実効性について定期的な評価、見直しの充実に努めていきたいと考える。また、要望・苦情解決第三者委員会の設置されているものの機能、実効性が乏しい状況である。施設内虐待の防止や児童・職員を取り巻くさまざまな問題に早期発見・早期解決するためにも 要望・苦情解決に対する機能の充実に努めていきたいと考える。

福祉サービス第三者評価

社会的養護施設に係る福祉サービス第三者評価の受審と結果の公表の義務化により自己評価を2年間続け2014年度、初めて第三者評価を受けた。評価を受けるための準備は施設体制を整える上で有効に機能したと考えられる。また、評価結果においては地域支援や段階的な研修、養育計画の策定、見直しなど課題が明確化された。施設が多機能化、高機能化し、地域福祉の拠点となる役割を担うよう発展させていくこと、権利擁護の視点にたった子ども一人ひとりに対する専門的な養育支援のさらなる充実が求められていることを再認識する機会となった。

<キヤサリンホーム>

1. 2014年度主な取組組みについて

1. 環境整備について
2. 職員の連携 ～スタッフ会議の充実～
3. 養育支援 ～食を活かした養育～
 - ・愛着形成における対応
 - ・コミュニケーションスキルへの対応
 - ・発達障害に対する対応

文責：ホーム長 三重野慶子

を中心に取組んだ。昨年度は発達障害や愛着障害についての学習を行い、今年度はその知識を基に個々の子どもへの理解を深めた支援、また、家庭の中心にある『食』を養育に取り入れ、職員間で連携し

支援を行った。

2. 取り組みの経過および結果

今年度は職員が4名から3名に減り、不安を抱えてのスタートになった。ホーム作りの目標に『ぬくもりのある家庭づくり』としていたが、どうだったのかと振り返る。

発達障害・愛着障害の子どもたちとの生活は、些細な変化で不安定になることが多々あった。そのような家庭の中でも変わらないことは『食』だと考え、今年度は個々に一緒に調理をする機会を設け、『食育を中心』としての養育に取り組んだ。

家庭的な役割の中で『大人と二人で共有する時間』は家庭の中にある当り前の生活であり、子どもたちにとって、喜びとなり安心感につながったのではないかと考える。また、そのようなホームでの時間を、退所した後、孤独を感じた時や挫折しそうになった時の心の支えになって欲しいと思い、アルバムにして子どもたちにも託しました。どの子も不安定になることは多々あったが、その様な時、必ず台所に来て手伝う子や、会話をする子どもたちが増えた。また、『食』への興味が広がり食事場面で、ただ自分の気持ちを抱きつけないで、味の違いをみんなの中で模索し、和やかな雰囲気の中での『会話』が増えたように思う。

また、昨年度は障害についての学習を行い、今年度はその学習を基に、ケース会議を中心としたスタッフ会議の充実を図った。子どもへの支援方針をめぐり、意見のくい違いからチームが崩れるのではなないかと職員を不安にさせることも多く、私自身の反省点でも考えている。しかし、ケース会議を行うことで、ホーム職員がお互いの意見を話し合うこと、また、他の職員の客観的な意見に気付かされる支援などもあり、みんなで共通理解し養育支援に取り組むことが出来たのではないかと思う。ホームスタッフが少ない分、たくさんの方に助けて頂き、支えられ、職員同士が連携を密にする大切さを改めて考えさせられる1年であったのではないかと考える。

3. 今後の課題

今年度は、チームワークを大切にしたい支援を考え『スタッフ会議の充実』と『生活の中で出来る支援』～『食』を活かして～をテーマに『ぬくもりのある家庭づくり』を目標にして、養育を行った。

私たちは子どもたちに『何かを教えなければ』という気持ちから、指導的になりすぎたり、接し方に関することが多々あるように思う。私自身がそのような気持ちから、支援に迷い悩んでいた。そのような時、ケース会議を通し、客観的な意見を聞き『普通でいいのでは？』と言われ『当り前の生活』の大切さを思い出した。自分の考え方に囚われ、子どもたちの自立を促すのではなく、チームでしっかりと個々を受け止め、みんなでの養育する中に『当り前の生活』があり『生活の中で出来る支援』に気付くことが出来るのではないかと思う。

子ども一人ひとりが抱える課題は様々で、必要な支援も統一性がない中、悩むことも多かったが、各スタッフからの意見に学び助けられる1年でもあった。

来年度はホームの体制も大きく変わるが、私自身、今年度の学びを活かし新たなホームでの取り組みを考えていきたい。

＜ウエストホーム＞

1. 2014年度の主な取り組みの項目

- ① 就労・進学支援（高校3年生個別対応）
- ② 自立生活支援
- ③ 進学支援（中学3年生個別対応）
- ④ 安定した学校生活への支援

2. 取り組みの経過および結果

- ① 就労・進学支援（高校3年生個別対応）

・溝部学園高校と連携を取り、就職説明会等にも参加していき情報収集していきながら、就労先を探していた。本人の希望に沿う職場を探し、将来の住まいなども含めて考え、就労に繋げていった。

- ② 自立生活支援

自立した生活ができるよう支援を行っていった。

イ) 自身での起床

文責：ホーム長 原田康子

- ロ) 時間を守る
 - ハ) 身の回りの片づけ、掃除、洗濯
 - ニ) 食事作り
 - ホ) 公共交通機関の利用奨励
 - ヘ) 金銭管理
 - ト) 運転免許取得(普通車)
- 以上の7点に着目し支援を行っていった。
(高校3年生個別対応)

最後に、卒業後の交通手段を考慮して、運転免許(普通車)の取得を勧めていった。将来一人で生活することを頭において個別に対応していき、3月下旬卒業し一人での生活を始めることができ

④(中学生、高校1年生対応)

起床に関しても自分で起きるように促していったので、自身で起床してくる児童が増えてきた。しかし、まだまだ寝過ぎることもあり、完全に自身だけでの起床は難しい状態である。

金銭管理に関しても機会あるごとに、生活するのにどれくらいのお金が必要なのかを話して聞かせ、お金の大切さを知らせていき、貯金をするように勧めていった。児童の中には、将来を考へ貯金を始める者も出てきた。また、銀行など金融機関に行く機会があれば、職員と一緒に行き手続きなどを自分でさせるようにしていった。

公共交通機関を使つての通学、個人で計画した行事を通して、自分の行きたい場所に自身で行くようになり、行動範囲が広がっていきつつある。

③ 進学支援

(中学3年生個別対応)

進路を決めていくにあたって本児に自分の将来について考えさせていき、志望校を決めていった。学習においては、学習ボランティアの方々の協力を得て、学力の向上を図っていった。3月には公立高校を受験し見事合格した。

④ 安定した学校生活への支援

学校を休むことは少なくなつては来ていたが、欠席や遅刻の多い児童に関しては、学校の担任と密に連絡を取り学校での様子の把握に努め、児童への理解を深めたいうえで登校指導を行っていった。加えて、日々の生活リズムを整え、気持ち良く一日のスタートが切れるよう配慮していった。不登校気味の児童には、担任、児童相談所、大分子ども療育センターなど他機関の方々に協力をして頂きながら進級に繋げていくことが出来た。

部活動をしている児童においては、部活動に熱中できるよう支援していった。中学3年まで部活を辞めることなく続けていってほしいものである。

また、規範意識が薄い児童を指導するに当たっては、社会的ルール、社会規範を児童に機会あるごとに話して聞かせていき、社会的自立をすすめるために必要な規範意識を持たせていくことを心がけていった。

3. 今後の課題

① 就労支援

挨拶がきちんとでき、人から好意をもたれる人間性の構築と一般常識、基礎学力の向上に努めていかねばならないと感じている。学校等関係機関との連携を図りながら就労を支援していきたい。

② 進学支援

高校受験に向けて学力の向上を図っていく。将来への希望、夢について語り合い、その実現に向けてアドバイスをしていき、本人が自ら学校を選び、進学に向けての意欲を持てるよう支援していく。

③ 自立生活支援

自身での起床が自立への第一条件だと考へるので、自身での起床ができるように生活リズムの見直しなどを行い指導していく。また、訓練棟を使用しての生活訓練を行い、その経験をもとに一人で生活できるように指導支援していく。また、運転免許の取得や、携帯電話の購入などを考へ、貯金をする等将来を考へた金銭計画を考へさせていくようにする。

④ 安定した学校生活への支援

欠席、遅刻をしないという意識を持たせていく。また、学習習慣の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。また、社会的自立を進めていくために、社会規範を知らせて行き、規範意識を持たせてい

くようにする。

くムラカミホーム>

文責：ホーム長 横大路明子

1 2014年度の主な取り組みの項目

2014年度5月末までムラカミホームは中学校1年生の男児を年長児とし、3歳児までを含む計7名男女混合型のホームであった。職員は4名（うち主に夜勤業務者3名、日勤業務者1名※9月より日勤者2名）で、昨年度同様、ホーム内にて食事作りから入浴まで全てを行ない、衣食住を子どもと共にする。5月末にホーム内児童の、性被害、性加害が発覚する。それら等も含め6月より職員、児童を含めメンバー構成を再編成となる。小学2年生男児1名と、6～3歳の女児5名の低年齢児のメンバー構成となる。今年度ホームとして取り組んだ主な内容については、前年度課題として挙げていた以下を、継続的かつ現在のホーム児童の年齢や適正に合わせ柔軟に取り組んだ。

- ① ホームが安心かつ落ち着ける場所となる。
- ② 「性教育」「性」を念頭に入れつつ、安心して暮らせるような人的、物的環境整備。
- ③ 食事に対する意欲・関心を育てる。
- ④ 愛着形成に問題のある児童、発達障がいのある児童への専門的関わりができるようチームや他職種、他機関との連携。

である。

性の件を含め、子どもや職員も安心して生活できる人的環境、物的環境の整備に努めた1年であった。ホーム職員だけではなく栄光園職員、専門職（心理士、FSW）、家族、児相、学校との連携、繋がり、その時々、各々それぞれの特性にあった取り組み方や関わり方を検討し、個別にあった対応を共通認識し、日々の養育支援を行なった。

2 取り組みの経過および結果

○年間を通し1名の住み替え、2名が措置変更、年度途中入所となった子ども2名となり、互いの信頼関係の構築に努めることが去年に引き続き、主であった。

○ホームが安心して落ち着ける「家」として機能するために前年度より継続し何が必要か、その都度チームで話し合い取り組む。6月より全体の年齢層が低年齢化したことで添い寝、絵本読み聞かせ、楽しく食事をする、触れ合い（良いタッチ）を大切にする関わり、丁寧な言葉使い、肯定的な話しの仕方、伝え方、リラクセスできる空間作り等愛情を伝えるさまざまな基本的なことを大切に支援に当たった。

○性問題の発覚後からは、性被害児童のフォローを園やホーム内、関係機関（学校、児相、心理）と連携すること。また、園で実施された性教育を基盤とし、全員がプライベートゾーンが身につくよう伝え習慣にすることの継続、子どもたちの服装のあり方の方の見直し改善、死角チェック（死角になる戸を外す、座布団の撤去）、鏡の活用、日勤職員の勤務時間調整をし見守りを手厚くできるよう、に取り組んだ。

○食育についての取り組みについては、昨年度から同様ホーム内での食事作りを行なった。自発的にやってみたいと意欲が旺盛であることもあり、年少児であっても、簡単な食材切りや炒め物まで職員と一緒にこなせるようになり、自身が手伝いをした食事において周囲から褒められる・認められる、ありがとうを言われる喜びの体得となる良い機会となった。また姿勢良く食事が出来るようにも取り組んだ。具体的には食育指導の中島先生の指導、助言を受けてテーブルの高さ、椅子の高さの調整の実施、座布団の活用、足置き作成にも取り組むことで良い姿勢の子どもが増えた、また個別の食べかかに合わせた、声のかけかた、対応の工夫（ランチョンマットの色の工夫、エジソン箸の活用、食べやすいようにおかずを小さく切る、）をした。

○愛着形成に問題を抱える子どもは、新年度を迎えてから情緒が乱れ、トラブルが目立ち始める。反抗挑戦性障がいに症状が似ており、専門の学習を深めた。その都度チームや担当職員、関係機関（児相、学校、医療機関）、専門職（心理士、FSW）、家族を含め連携し、話し合いの場で情報共有することを大切にし、適切な支援を模索し支援することで、子どもとの関係構築に努めた。またチームで出た意見や適切な対応を抽出し対応検討項目表を作成し定例会議毎（月2回）振り返り、効果の確認も続けた。受容と指導のバランスの難しさを実感しつつも、子どもが自分の気持ちや意思を他者に伝えることの向上、約束を守ること、笑顔が多い時間を家（ホーム）で持つことによる自分らしさの構

築に繋げることができるようになった。その他にも幼児においては4月より幼児も全員幼稚園へ登園することとなった1年であった。幼稚園側とも密に連携（報告、連絡、相談）することにも努めた。子どもたちは幼稚園という新たな社会生活を通して活気や表現力を豊かにしていくことができていた。また幼稚園に行くことが楽しみでしかたないという子どもたちの心が育った。

3 今後の課題

今年には性的問題が起きたことに加え、新たな人員配置となり、職員数が不足しており前半落ち着かず、慌ただしさが強い時期もあった。後半にはメンバ―が安定したので、今後このまま人的環境が常に安定しているよう次年度は園と共に努力していきたい。

また、本年度は常にチームで活発に情報や意見を交換すること、他ホームや専門職、他機関と連携すること、柔軟に対応を模索していくことが常に求められた1年であった。今後、女子棟となる中でも継続して、それらのように問題解決に取り組みたい。また継続して性教育には取り組めたらと考える。さらに、大人と子どもとの信頼関係の構築を今後もよりいっそう図り、共に育ち、ホームが安心かつ落ち着ける場所となるよう改善を続け深めていきたい。言葉かけの方法、対応方法についても柔軟に学び取り組みたい。

<マツモトホーム>

1 2014年度の主な取り組みの項目

<養育支援>

- (愛着形成)
- ・信頼関係作り。
(コミュニケーションスキル)
- ・「気持ちを素直に伝えること」「相手の気持ちを知る」を特に意識する。
(発達障害)
- ・個々の個性を見守りながら、それぞれのペースに合わせ、出来ることを増やす。
- ・他児との関係作りを支援する。
- ・個性を受け止めながら自立に向けての土台作り。
(個別支援)
- ・個々の様子について話し合う場を作り、共通理解する。また、支援方法を検討する。
- ・個々の気持ちを大切にす。
- (その他)
- ・手伝いは自主性に任せる。また、助けて欲しい時をお願いする。
- ・食への興味に繋がるような経験を増やす。
- ・私立幼稚園入園
- ・性教育

<職員連携>

- ・それぞれの業務に責任をもって取り組む。
- ・引き継ぎをしつかり行なう。また、話し合う、共感する、認め合う事を大切にす。
- ・子ども達が戸惑わないように、一貫性をもった支援を実施する。
- ・より良いホーム作りのため「ホーム改善点」を意識する。

2 取り組みの経過および結果

- ・職員の入れ替わりが続き、子どもも職員もなかなか落ち着かない日が続きました。試し行動が続いたり等情緒不安定な姿が見られました。
日々の関わりを大切にし、少しずつ信頼関係を作っていました。
 - ・言葉使いについては職員の言葉が影響されやすいことを感じる場面があり、意識を高めることが今後の課題です。
- ・気持ちを素直に伝える事が苦手な子どもが多く、支援方法に悩みました。
色々試行錯誤しながら支援方法を検討していきました。支援を取り入れて気付くことや考えさせられる事も多く失敗経験も多くありました。失敗を認め、次の支援に活かせるように職員で話し合いながら

文責：ホーム長 野田菜穂子

進めていけたのは良かったように思います。また、職員側の気持ちの切り替えの大切さや意識の持ち方次第で子どもの姿に大きく影響することを学びました。

- 軽度の知的や発達障害を抱える子どもたちへの支援は、「個々に合った支援」がなかなか見つからず何度も壁にぶつかり、悩みました。学校や医療機関との連携、専門職への相談、アドバイスを受けながら支援方法を検討していきましました。
- 個別支援では担当が中心となり支援することも多くありました。担当は受け止めること、抱える事も多く、周りの職員のサポートの大切さをとても感じました。
- 職員の見方、感じ方、受け止め方は様々な為、毎月、個々の様子を話し合う時間を設けました。共感したり、困りが分かったり、意見交換ができ、共通理解が増したように思います。また、支援方法のヒントに繋がったように思います。
- 個々の気持ちを大切に支援していきましました。子どもたちの気持ちを聞き、一つ一つ決めていったことで何か問題が起きた時に子どもたちの心に響きやすかったです。気持ちを受け止めることとは出来ても叶える事が出来なかつた事もあり、その経験もお互いに学ぶ事があったように思います。
- お小遣いの使い方について課題が残りました。もう少し子ども達の気持ちに寄り添いながら検討することが今後の課題となりました。
- 興味のある手伝い、大変な時に頼む手伝いをバランスよく取り組める支援を心がけていきましました。気持ちを伝えることで素直に手伝う姿が増えたように感じます。また、「助かった」という言葉を添えることを意識しました。
- 食への興味へと繋げるため、簡単な調理経験を重ねてきました。1品の簡単な調理経験にした為、ゆっくり教えることもでき、職員の気持ちの余裕にもつながりました。旬なものや買物の仕方、片づけ方法も意識しながら取り入れてくれたのも良かったです。計画を立てた時に限らず、日々の食事、色々な経験を重ね、食への興味が広がったように思います。
- 普段の経験が増すように意識することが今後の課題です。
- 今年度から2歳児～4歳児は私立の幼稚園に通うようになりましました。初めての集団生活がどのようなのか、期待と不安がありました。最初は戸惑う姿があったり、なかなか集団生活の輪の中にとけこめない姿がありました。が、徐々に慣れ、幼稚園に行くことを楽しみに待つ姿が見られるようになりましました。また、友達や先生との関わりを楽しめるようになりましました。
- 皆と一緒に楽しむこと、一緒に頑張ること、友達への思いやりを学ぶ等々の経験が多くできたように思います。体力が増したのも幼稚園の影響が大きいと感じています。今年度からの取り組みでしたが、子ども達にとってとても影響の大きいものになりました。
- 今年度は「性」について考えさせられましました。
- 職員の意識を高めることを課題に、毎月、「性についてホームで出来ること」をテーマに意識する時間を設けましました。小さなことから取り組みしかできていませんが、職員の意識が高まるきっかけはなっているように感じまします。
- 職員連携として、職員一人ひとりのカラーを大切にしていましました。ただ、最低限の共通ルールはその都度話し合いながら決め、子どもが戸惑う事が少なくなるように支援方法を検討していきましました。連携がうまくいかないことも多々あり、話し合うこと、共感し合うこと、認め合うことの大切さを学びましました。
- 毎月、「ホーム改善点」を話し合う場を設けましました。より良いホームなれるように意見を多く出し合えることが今後の課題です。

3 今後の課題

- 子ども達の個性を理解し、一人ひとりに合った対応、成長を促す支援がどれだけ出来るのか。
- 気持ちを素直に伝えられる安心出来る場、関係をどれだけ作ってあげられるのか。
- 自己肯定感を育む支援
- 職員連携
- 保護者支援
- 性教育

注) 総主任、心理職、栄養士は前年度の資料を参考に、必要なデータの修正もしてください。
各ホームはホーム長作成 (4 ホーム) A4 サイズで1~2 ページにまとめること。
期限は5月15日 (水) くらいを目安に、このフォーマル内にお問い合わせください。

1. 2014年度の主な取り組み

- ①協力し合って温かく子どもたちが落ち着いて帰れる場所作り。
- ②子どもが自分で考えて自分で行動できるように自主性を促す。
- ③高学年に向けて、自分の洗濯物は自分で畳むことができるように指導していき、身の回りの整理整頓の指導も行う。

という三つの取り組みをベースに、今年度の取り組みを行ってきた。

年度当初は、地域小規模児童養護施設への移行を視野に入れており、より家庭的な雰囲気作りを行ってきた。幼稚園児から小学6年生までの幅のあるホームであり、高学年は中学校進学に向け、自立を意図することができるような支援を行う。また、児童らの中には様々な特性を持った児童が多いため、児童らが安心して生活できる住空間を作れるように、職員連携を図り、支援を行ってきた。

2. 取り組みの経過及び結果

前年度と人員もほとんど変化することなく、安定した精神状態と、生活習慣でスタートすることができた。

職員と児童の関係も良好であり、暖かい雰囲気の中、生活できていた。安心して「ただいま」と言える、職員も「おかえり」と必ず声を掛けることを大切にできた。食事の際にも、一日の出来事を振り返るなど、感情の共有を図り、精神的な安定に努めた。しかし、男女混合、年齢の幅もあり、口調の荒さや、活動の激しさが増してしまっ点があった。

児童らが、自ら考え行動できるように職員が道筋をたてるのではなく、共に失敗を経験し、そこからどのようなことを学ぶのかを共に検討し、次の行動に繋げるように支援を行った。失敗が続いてしまい、自己肯定感が薄れていくこともあったが、成功体験での経験値が高く、そこからの成長はとも伸びやかであり、自ら挑戦する意欲にも繋がった。

高学年に向けて、身辺整理の点では、お手伝いを通して、畳み方やしまい方などを学ぶことができ、小学生でなく幼稚園生でも上手に洗濯物を畳むことができていた。居室の整理に関しては、個人差を持ち物の差があり、贈り物をする保護者との了解を得て、物を減らしていくことも行った。物の大切さと、扱い方をそこから学ぶことができていたが、年齢差が激しかったのが現状であった。

次に、行事では5月に公共機関を利用した行事を行い、運賃や時刻表についての学習を行うことができた。始めは、バスの様々な経路を経験し、目的地への方向や、車内での過ごし方を学ぶ。現在工事中である大分駅でのバス利用も行い、不慣れな場面でも、時刻表に書いてある情報をもとに目的地にたどり着くことの難しさを学ぶことができた。

11月には、園の行事としては初の試みである登山を行う。小学生は職員と一緒に下見に行き、紅葉を感じながら登山への期待を膨らませることができ、ホームに戻ってから、幼稚園生に伝えるというごく自然な形で、互いの期待感を高めることができていた。登山をしてみると、児童らの意外な一面が見られた。また、登頂した際の達成感は何事にも代えがたい経験であっただろう。今後、このような行事を行い、感受性を伸ばすことに努めたいと感じた。

3. 今後の課題

ホーム2年目となり、人員配置もほとんどなく、安定したスタートが切れたことは、幸いであった。その中で、自主性を伸ばしたいがために、こちらからの道筋の立てから甘く、自己肯定感が薄れてしまう事態が起きてしまった。早期に対応していれば、また違った成長を見ることができたように感じる。年度末には、高学年の万引きもあり、職員と児童らのコミュニケーション能力も問われたように感じた。また、感情表現の乏しさや、コミュニケーション能力の乏しさから、物事の重大さがさほど伝わっていないというような様子もあった。

今後もコミュニケーション能力の向上に努めるようにし、児童らの特性を考慮しながらの支援を行うていく必要があると、強く感じる。

心理部門報告

1 2014年度の主な取り組みの項目

1. 入所児童への心理療法(カウンセリング、遊戯療法)

2. 入所児童への心理検査
3. 入所児童の生活支援
4. 各職員への相談業務(コンサルテーション)
5. 職員のメンタルヘルス支援
6. 各種連絡会への参加(施設心理連絡研修会/施設心理士と児相心理司/法人セラピスト)

2 取り組みの経過および結果

- ① 入所児童への心理療法(カウンセリング、遊戯療法)

実施回数：374回 対象年齢：6歳～高3 場所：心理棟(児童養護施設) 実施頻度：児童による(週1回、月2回)。

直接処遇職からの評価として、おおよそのケースが「やや改善」。なお、2件の未改善のうち、1件は途中退所(別施設へと措置変更)。改善/未改善の意見が分かれたケースが1件。

- ② 入所児童への心理検査

検査項目：文章完成検査、描画検査

実施回数：4回

複数の心理検査を組み合わせるとりの子どもの総合所見を作成。それを元に、上述の心理療法の内容を検討していった。

- ③ 入所児童の生活支援

実施回数：23回。生活でのストレスが未消化のまま悶々としていたり、逸脱行動(万引き)に対する支援(生活場面面接)が必要だったりした。

- ④ 各職員への相談業務(コンサルテーション)

実施回数：107回。昨年度の51回よりも大幅に多い。相談者は、対応困難に陥っている子どもたちの担当職員が多かった。テーマとしては、子どもの支援を巡って「職員分裂の危機」であった(厳しく指導する/受容的態度を貫く等、対応指針についての意見がまとまらなかつた)。

- ⑤ 職員のメンタルヘルス支援

心理検査による職員の健康状態把握だけにとどまらず、仕事上の困りを取り扱うことが出来た。

- ⑥ 各種連絡会への参加(施設心理連絡研修会/施設心理士と児相心理司/法人セラピスト)

(ア) 施設心理連絡研修会への参加：10回

(イ) 施設心理士と児童相談所児童心理司との連絡会：2回

(ウ) 法人セラピスト連絡会への参加：10回

昨年度同様、(ア)については、スーパーヴァイザーを招いての事例検討を行っている。記録者も事例発表を行い(テーマ「各職員への相談業務」)、その実施の意義や工夫の仕方を改めて振り返りさしかけとなった。一方で、(ウ)については日々の困りごとを2人の法人心理職で共有しながら、その打開策を議論していった。ただし、今年度を以て、乳児院心理職が退職となるため、次年度は状況(後任の赴任)をみながら活動していく。

3 今後の課題

- ① 重篤例ではあるものの来談意欲に乏しいケース

高校生のケースでは、女性職員への関わりを強く希求し、男性職員へあまり興味を示さない経過をたどった。男性心理職である記録者もその例外ではなく、適切な支援ができたとは言いがたい。その結果として、心理療法は「中断」となった。次年度は、直接的な支援(心理療法)は出来ずとも、生活場面面接等、直接処遇職と協働しながらでき得る限りの支援を行っていく所存である。

食事部門報告

1、栄養管理

- ① 食事提供量、発育状況を確認するため、身長・体重、及びそのバランスを(肥満度)確認する(結果・課題)

・一人一人にあった量の食事を提供するために、お皿に盛る分量の目安を職員共通で把握しておく必要がある。

・発注した食材の使用忘れがあったが、使いきれぬよう栄養士と相談し、使用した。各ホームでの食材管理の見直しも必要である。

② 入所時、食物アレルギーを確認し、主治医の指導のもと、除去食・代替品等の対応を行う

文責：栄養士 佐藤朱美

③子どもものの体の不調を確認し、職員の連携をとり、できるだけ食事の中で改善できるように努める

(結果・課題)

- ・よく噛んで食べてない子どもが多いので、噛むための調理法や料理の工夫・食材を提供し、噛むようになっただ。
- ・よく噛んで食べることや早食いを減らすためにも、個人にあった食事の対応を行った。(適切な食量からおかわり分を用意し、急いで食べなくても自分専用のおかわり分があることを知らせ、安心して落ち着いて食べる習慣を身につけるよう支援する。)

※ 献立作成

① 旬と食材の安全を踏まえた献立と栄養バランスを考慮し、沢山の食にふれ、関心の持つ献立作成をする

(結果・課題)

- ・新しい献立を取り入れると、警戒しているような姿(食べるのに時間がかかると等)が見られることがあった。一方、普段から提供しているメニューについては、いつも同じものばかりという意見があった。バランスが難しいが、人気メニューやほっとできる家庭料理を繰り返し組み込みつつ、いろんな食材を取り入れるためにも子どもたちの反応や様子を見ながら新メニューを取り入れていきたい。

② 各料理のレシピ作り

(結果・課題)

- ・料理には正解がないので、CWも工夫しながら調理を行っていた。
- ・作る人には長年の経験により、高い技術を持った人もいるため、そのような人たちの技術や知識も取り込んでいきたい。また、技術や知識を広める機会も持たたい。

※ 行事食

① 子ども一人ひとりの存在を大切にするために誕生日会を行う

② 誕生日メニューに、リクエストメニューを取り入れる

(結果・課題)

- ・誕生日の人がいるホームのみリクエストメニューを取り入れた。結果、特別感もでて子どもたちが喜んでいった。
- ・他ホームには、誕生日が把握されにくく感じるが、献立表に『○○誕生日』と記載することによって誕生日であることを知らせている。

③ 季節(旬)を感じ、行事食を通して、文化にふれることなどから、食べ物の恵みに感謝する心を育てる

(結果・課題)

- ・お正月をはじめ、ひな祭りや節分など、毎年行っている行事が小中高生に定着してきた。
- ・「食べ物の恵みに感謝する心を育てる」ため、終戦記念日に品数の少ないメニューを今年も取り入れたがまだ定着までにはいたっていない。前者の行事食と同様に毎年行うことで、定着できるように働きかける。

・特別な行事食の提供時に、その食べ物が食べられる由来を掲示物として各ホームに配付を行った。衛生管理

※

① 安心・安全な食事を提供する為、衛生管理点検表の基、調理を行う

(結果・課題)

- ・衛生講話をCW全体に行った
- ・衛生管理点検表を基に台所周りの点検を行った結果、台所がきれいな状態で保たれるようになった。

・いつもきれいな状態で保つために、新任職員への指導も行う。

② 感染症などの予防の為、食事前の手洗いを徹底する

(結果・課題)

- ・石鹸で手を洗うことの徹底は未だにできていないが、声かけをすれば行う現状である。繰り返し声かけを行い、定着させていく。

③ 口腔内を清潔にし、歯の大切さを伝える

(結果・課題)

- ・CWが歯磨きの徹底を促し、食事の時に噛むこと、歯の大切さの話をを行った。
- ・歯磨きの徹底、噛むこと、歯の大切さを伝えることを継続して行う。

④ 調理従事者の腸内細菌検査を行う

(結果・課題)

- ・ホームごとに回収し栄養士が集計した
- ・期日に遅れる職員がでる月があったため、来年度は期日前に積極的に呼びかけを行うようにする。

嗜好調査

① 子どもの嗜好・食育の評価・改善するために行う

(結果・課題)

- ・食育評価・改善をする調査をできなかったのも、来年度行う。

※ 食育

- ① 子どもの発達・発育に合わせた食習慣を身につける
- ② 楽しい雰囲気の中での食事で、他の人々と親しみ支えあうために、自立心を育て、人とかかわる力、コミュニケーション能力を育てる
- ③ 自立した食生活が営めるよう支援する
以上を踏まえ、各ホームで目標をたててもらった。

各ホームの食育目標の結果と反省

ウエストホーム

内容	<p>健康を維持していくための食材の知識を習得し、調理することに関心を持ち、自立した食生活が営めるようになる。</p> <p>食事のマナーを守り、和やかに食事をすすめるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CWと一緒に食事の準備（配膳）をする ・CWと一緒に調理をする ・食材に興味を持つ ・食材の価格や選び方を知る ・調理器具の使い方を知る ・食事のマナーを知る <p>・買い物、調理を体験させていきながら、様々なことを身につけさせていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事のマナーを知らせていく
結果・検討	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、調理実習を行うことが出来なかった為、食材に直接触れること、調理器具の使い方を知らせることが出来なかった。 ・食事のマナーに関しては、外食の際は、知らせて行くにとどまった。
振り返り	<p>今年度は、情緒不安定な子どもが居り刃物を子どもに持たせられなかった為、調理実習も出来なかった。何よりも安全が第一であるからである。少しでも職員の中に不安要素があれば実習を行うことは避けた方が良いとの考えがあったのであった。</p> <p>しかしながら、調理経験をさせて行くことで子どもたち自身が学ぶことが数多くあると思われるので、調理実習を再開できるようになった時点で速やかに調理実習を行っていくことが望ましいと考える。</p> <p>食事のマナーに関しては、プライドを傷つけないよう悪い所を指摘するよりも望ましい姿を子どもたちに見せながら知らせて行くように心掛けてきた。しかし、子どもたち自身に大人の意図は届いておらずなかなか指導までには至らなかった。周りに人がいない時などタイミングを見ながら子どもにも率直に伝えて行けば良かったと反省している。</p>

キャサリンホーム

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合わせた調理を体験させる → 箸等の準備、配膳、基本的な調理（食材の切り方等） ・コミュニケーション能力を身につける ・食事のマナーを身につける → 姿勢・食べ方等 ・五感を養い、食材や調理の知識を身につける
----	---

	子どもの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年は簡単な食事の準備から経験し、年齢が上がるにつれ配膳や基本的な調理を経験する ・団欒の場で自分の体験談や気持ちを相手に伝える。また相手の話を聞く ・箸の持ち方や姿勢を正しくする ・食材そのものに興味を持ち、鮮度を学ぶ ・子どもひとりひとりに合わせた支援をしていく <ul style="list-style-type: none"> → 箸等の準備、配膳、基本的な調理（食材の切り方等） ・指導中心にならないように、声かけを行う ・学校での出来事や調理の知識などを会話に取り入れる ・生活の中で調理前の食材に触れさせ、鮮度（色・形・匂い等）を五感で感じられるような体験を取り入れる ・食材の選び方を知らせていき、実際の買い物で活かせるようにする ・テーマとしていた“日常”のなかでの食育に取り組むことが出来たように思う。 ・子どもの意欲に合わせ、無理のない調理体験ができた。 ・調理を通して食材に触れることで“食”に関しての気付きも増え話題も広がった。 ・買い物物の経験はクリスマスメニューのみとなってしまったが、子どもたちなりに食材を選ぶ姿がみられた。
振り返り	結果・検討	<p>日々の生活の中で、子どもたちから意欲的に調理する姿が増えてきたものの、クラブ活動が多く日程を合わせ事も難しかったため、買い物まで取り入れることができなかった。</p> <p>調理体験が増え、知識が増えると“食”に対しての興味も湧き、食卓で“食”が話題になることも多かった。食を通じて話題が広がり楽しく食事をする事が増えたように思う。</p> <p>マナーについては、指導的にならないよう声掛けを行って来たが定着までには至っていない。</p>

ムラカミホーム

	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の際の会話を大切にし、楽しく食事をする ・食事の際の姿勢に気をつける
	子どもの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の様子を食事時間という共有する時間の中で、互いの話をしながら、共感することや、相手の気持ちを考える ・楽しい食事とふざけることの区別をつける ・食事マナーや姿勢を自身で気をつけ、互いに意識できるよう声を掛け合う
内容	援助ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の中で日々の情報の共有をすることで、食事を通じて、お互いの信頼関係構築を図る ・夕食は和やかに食べられるように、ゆっくり30分は食卓を囲む時間にする ・良い姿勢を保てる環境を整え支援する（テーブルの高さが合わない子にはクッションを引く、足置きを置いて調節をする） ・会話の中で食材や調理法についても触れ、食に対して興味、関心を持つよう働きかけていく

振り返り	結果・検討	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の時間に子どもたちが互いの話をし、楽しくコミュニケーションを深める時間となった。夕食は特にゆっくりと食卓を囲む時間となった。 ・マナーについては三角食べについては会議で話し合い、無理なく取り組むこととした。姿勢や箸の持ち方、左手を皿に添える、口の中にもものがなくなつてから話すについては、その都度声かけしマナーを教えた ・良い姿勢が保てるように、椅子の高さ、クッションをひく、足置きを置き調整した。姿勢の良い子どもが増えた。 ・日常生活の中で調理を自ら手伝う子どもが増えた。食材の名前を覚えることや調理法について触れ、学ぶことに繋がった。また食事時間にお手伝いが話題になることも多く、子どもが食の関心を深めることや、調理の達成感、喜びにも繋がった。
振り返り	反省	<p>楽しい食事時間と、マナーの間で難しさを感じることもあった。今後もマナーの伝え方の工夫や、自然と身につくよう大人が手本となること、また楽しい会話のバランスがとれるような配慮に取り組んでいきたい。</p> <p>良い姿勢が保てるように定期的に椅子の高さや足置きの確認、調整をしたほうが良かった。合わないまま使っていたものもあった。</p> <p>調理が好きな子どもが多いので、今後日常のお手伝いに加え、調理実習の機会を増やしていきたい。</p>

マツモトホーム

内容	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・食事マナーを促されずに意識できるようになる ・簡単な調理に興味をもち、やり方を知ったり、食材に触れることを楽しむ ・食事マナーを考え、進んで意識する ・簡単な調理に興味をもち、やり方を知る。食材に触れることを楽しむ ・食事マナーの意識が高まるように声かけの工夫を行う ・簡単な調理から経験を増やし、食材ややり方を知らせながら食への興味が広がるようにしていく
振り返り	結果・検討	<ul style="list-style-type: none"> ・食事マナーを促されずに意識できるようになる。 →促されずというのは難しかったが意識する姿は見られた。次年度も継続して行う。 ・簡単な調理に興味をもち、やり方を知ったり、食材に触れることを楽しむ。 →こまめな調理実習と日頃の経験を取り入れた。簡単な調理がホームの子どもたちも合っていたように感じる。また楽しみながらできているうえ経験を重ねるにつれてできることも増えていき自信がついたように思う。食への興味もひろがった。 <p>日勤者と協力しながらより日頃の経験を増やしていく、また色んな子が取り組めるようにしていく。</p>

オゴウホーム

内容	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・和やかな雰囲気でお話のある食事をする ・三角食べを意識する ・基本的な食事マナーを身につける
内容	子どもの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・その日にあつた出来事などを話す ・一種類ずつ食べるのではなく、順にバランスよく食べる ・大人のマナーを真似して、基本的マナーを身につける
内容	援助ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や幼稚園での活動を振り返りができるようにし、指導的にならないようにする ・バランスよく食べるのが、良いマナーになることを伝え、大人も見本となって食事マナーに気をつけるようにする

振り返り	結果・検討	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の雰囲気としては、とても明るく、その日の出来事などを振り返りながら、食事を行うことが出来ていた。 ・食材や料理、偏食についても話したり、互いに励ましたりしながら食べることで出来ていた。 ・バランス良く食べる見本として、大人が気をつけ食事を行い、一緒に食べるなどをして、援助を行うことができていた。
	反省	<p>会話を大切にして、明るい雰囲気ですべてしていたが、テンションが上がりがりすぎてしまい、マナーが悪くなることがあった。</p> <p>偏食について、量の調節を行い、また栄養などのことも伝えながら、食事をすることで意識付けをするべきであった。</p>

④各ホームで、献立作成・食材購入に行く調理実習を行う

(結果・課題)

- ・小舎になり、食材を見たり触れたりする機会が増えたこと、また、調理の手伝いにも入りやすくなったことから特別な調理実習を行うホームが少なかった。
- ・日々、調理の手伝いを行うことで技術の習得はできるが、献立を自分たちで考えることや、食材の購入に自分たちで行くことにより、値段や旬の食材、珍しいものを意識的に見ることができると、これからも調理実習を促していきたい。

※ 備蓄食品

①緊急時に備え、職員全員がいつでも直ぐに使用できるようにする

(結果・課題)

- ・職員全員が緊急時誰でも使用できるように、保管場所を繰り返し知らせていく。

②災害時用献立3日分、感染症対策14日分備蓄する

保管場所→新築棟2階障害者トイレの隣の倉庫

③災害訓練に災害時食をとる訓練を行う

(結果・課題)

- ・今年度、災害訓練に災害時食をとる訓練まで取り入れることができなかつた。しかし、備蓄食品の賞味期限が近づいていたことから、アルファ米の炊き出しセットなど普段使うことのない備蓄食品を各ホームで実際に調理してもらった。その結果、最初は調理法が分からず戸惑っていた職員や子どもたちも実際に調理をすることにより、使い慣れていない備蓄の調理について把握でき、災害時の調理のイメージができた。

2014(平成26)年度 乳児院栄光園 事業報告

1、運営報告

重点目標、業務内容ともにおおむね計画通り実施された。

月別初日在籍児童数(定員20名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍	18	16	15	18	19	17	16	18	18	19	19	20	213
一時保護	1	0	2	0	5	5	6	5	3	5	2	4	38
シヨーステイ	1	4	2	1	0	1	1	4	3	2	2	0	21
計					24	22	22	23	21	24	21	24	

※・6月～2月までの間、乳児が毎月7名～11名在籍

・リフォーム及びパート職員雇用で対応

※登録パート制導入

2、養育内容(基本的かかわりの徹底に努めた。)

- ①入所から退所まで担当制及び月齢に合わせた横割り養育
- ②「笑顔で」やさしく「十分なスキンシップ」を心がけた養育
- 3、事業の具体的な取り組み

①子どもたちの生活環境改善のためのリフォーム

・乳児居室、トイレ、医務室、廊下、厨房

②乳児院の「リーフレット」を3,000部作成。広報活動として行政・団体・研修時に配布

③シヨーステイ事業：県下13市3町と契約

4、本年度特別記事(計画外)

①小規模グループケアの取組：既存の床面積の中、必要な設備の整備及び職員の確保

→改修費300万円支出：H26.11月～小規模加算2,659,200円収入 ▲340,800円

→子どもたちとの愛着が深まり、生活動作が大きく伸びている。

②職員の業務外事務の負担を軽減：事務員を乳児院に配置

5、事務部門

○2014年度収入合計 166,613,206円

小規模加算1ヶ所が11月から認定されたことにより増額。また、前年度分2,000,000円を戻し入れ

○2014年度支出合計 166,607,482円

人件費6,034,133円増額。3グループ制を敷き、職員を厚く固定化した。

人件費積立資産6,847,000円、設備整備等積立資産0,500,000円。固定資産取得費2,878,550円計」

○資金収支差額 5,724円

全面建て替え(3年後を計画)に向け、人件費、施設整備等各種立資産を継続積立していく。

6、今後の取組

・「乳児院の概況」冊子を作成し関係機関へ配布

・全面建て替えに向けての具体的計画

H26年度 入退所状況(一時保護・ショートステイ・レスパイトケア含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
初日現在	18	16	15	18	19	17	16	18	18	19	19	20	213	2
入所	1	1	1	2	1	1	4	2	2	2	2	1	20	6
退所	5	1	0	0	2	2	2	3	1	2	1	3	22	7
一時保護委託	1	0	2	0	5	5	6	5	3	5	2	4	38	34
延日数	15	0	18	0	57	99	98	95	87	62	59	40	630	488
市ショートステイ	1	4	2	1	0	1	1	4	3	2	2	0	21	11
延日数	5	11	6	2	0	3	4	13	16	7	7	0	74	20
レスパイトケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

入退所の理由とその状況

入退所の理由	人数
入所理由: 家族の状況	5
母: 精神疾患	8
家庭での養育困難	1
父の勾留	2
母の拘留	1
虐待	2
経済的問題	1
その他	1
合計	20

退所理由	人数
家庭引き取り	10
親戚引き取り	0
里親委託	6
児童養護施設	6
合計	22

退所月齢	人数
6ヶ月未満	2
6ヶ月～1歳未満	4
1歳～1歳6ヶ月未満	6
1歳6ヶ月～2歳未満	2
2歳～3歳未満	6
3歳～	2
合計	22

在所期間	人数
1ヶ月未満	2
1ヶ月～3ヶ月未満	7
3ヶ月～6ヶ月未満	0
6ヶ月～1年未満	1
1年～2年未満	6
2年～3年未満	6
3年～	0
合計	22

研修会参加状況

乳児院関係

研修会名	場所	日時	参加者
全国乳児協議会協議総会	東京都	5月12日	院長
アセスメント研修会	福岡市	5月30日	安西・大石奈
施設長事務担当職員研修会	沖縄県	6月19～20日	院長・桑野
全国乳児院研修会	石川県	7月16～18日	福本
全国乳児院協議会	高知市	10月9～10日	渡邊ゆ・土谷・木元
福岡乳児院協議会	福岡市	11月13～14日	院長・本庄・井上・牧
九州乳児院施設長会	福岡市	11月20日	院長
乳児院上級者セミナー	東京都	11月27～28日	山口・後藤し
児童福祉施設長研修会	東京都	12月4～5日	院長
乳児院指導者研修会	横浜市	2月4～7日	大石奈
九州乳児院職員研究大会	大分県	2月19～20日	乳児院職員

県養護施設・児相関係等

県児童養護施設施設長会	各市	年6回	院長
食べる支援とコミュニケーション	大分市	5月11日	本庄
芸短オペレーションガレッジ	ホルトホール	5月～7月全10回	院長・桑野
乳幼児の応急・救命手当て講習会	大分市	6月22～23日	本庄
人権研修	県庁	9月18日	安西・桑野
社会貢献セミナー	レンプラントホテル	9月18日	院長・桑野
児童養護施設新任研修会	中津市	9月18～19日	三浦
県養協新任研修	別府市	9月30～10月1日	松岡
食育フォーラム	別府市	1月11日	長谷部
トップセミナー	大分市	1月16日	院長・安西・本庄
県養護施設全職種研修会	別府市	2月20～21日	院長・江藤・後藤晶
妊娠の悩み相談整備推進会議	中央児相	2月20日	渡辺愛
福祉・介護人材キャリアパス支援研	社会福祉会館	2月23日	後藤真・得能・山口
人権推進協議会	大分市	2月23日	院長
福祉施設との研修	中津市	2月17日	本庄
退職共済事務担当者説明会	大分市	2月26日	桑野
児童養護施設合同研修会	別府市	2月26～27日	院長・本庄・安部・上米良・松崎
家庭支援合同研修	中津市	3月4日	院長・安西
福利厚生企画情報委員会	大分市	3月6日	桑野
施設社協セミナー	大分市	3月14日	院長

里親関係

(里親支援専門相談員：大石香奈)

ファミリールーム連絡会	中央児相	4月・10月・3月	
里親テラママ別研修(1回目)	中央児相	6月1日	安西・本庄・後藤真・得能・山口
里親テラママ別研修(2回目)	中央児相	9月7日	
子どもの育ち育てを考える研修会	福岡県	10月5日	
里親スキルアップ研修会	大分市	10月26日	
九州地区里親研修会	沖縄県	11月1日～2日	
里親認定前研修	中央児相	2月1日・22日	
里親委託推進委員会	中央児相	3月6日	
トライアル里親研修会	中央児相	11月29日	
里親支援連絡会	中央児相	毎週水曜日	
養育里親更新研修会	中央児相	年4回	
プレゼンテーション研修会	中央児相	12月4日	

事業実施状況
子どもたちの行事

月	行事	食育
4	お花見(グラウンド桜の木下にてお弁当)	ホットケーキ作り
5	端午の節句(衣装撮影) 子どもの日お楽しみ会 乗り物体験お出かけ	おにぎり作り 焼きそば作り
6	里親きっさ	
7	親と子のふれあい会	そうめんパーティー
8	磯遊び・海水浴 スイカ割り・園庭花火	かき氷作り
9	お月見	
10	秋の行楽	三色おはぎづくり
11	里親きっさ	たこ焼き作り
12	クリスマス祝会(全体)・サンタクロースプレゼント会 餅つき	ポップコーン作り クッキー作り クリスマスケーキ作り
1	新年挨拶お年玉・初詣	夕食(カレー)作り
2	宮参り(衣装撮影)	
2	節分(豆まき)	チョコレート作り
3	ひな祭り(衣装撮影)	クッキー作り

※各グループごとに、個別な関わりの時間を持ちながら活動を実施。

- ・園外保育・園庭ピクニックなど積極的に取り入れ、子どもたちの活動域を広げた。
 - ・抱っこボランティア・お話ボランティアは定期的かつ継続しての支援を得られた。
- ※中島智夏子先生による毎月の写真指導。また、子どもの必要度により随時対応を実施
・指導を受けた子どもは、顕著に落ち着きが見られるようになった。

学生・里親実習受入

学校名	人数	期間
東九州短期大学	1名	8月4日～14日
別府大学短期大学部(夏 1期)	2名	8月30日～9月10日
西南女学院短期大学	1名	8月 25日～9月4日
別府大学短期大学部(夏 2期)	2名	9月1日～9月12日
中村学園短期大学部	1名	9月 5日～9月15日
福岡こども短期大学	1名	2月 2日～2月12日
別府大学短期大学部(春 1期)	2名	3月2日～3月12日
東九州短期大学	1名	3月12日～25日
別府大学短期大学部(春 1期)	2名	3月16日～3月27日
計	15名	

(養育里親認定資格取得のため)

大分県里親	2名	7月24日・ 7月 31日
計	2名	7月26日・ 7月 27日
計	2名	

(養子縁組里親認定資格取得のため)

大分県里親	2名	7月12日・ 8月 2日
計	2名	7月20日・ 8月 3日
計	2名	7月21日・ 8月 17日
計	2名	7月29日・ 9月 21日
計	2名	8月15日・ 8月 16日
計	2名	11月15日・ 11月 16日
計	2名	11月17日・ 11月 22日
計	2名	11月30日・ 12月 6日
計	2名	1月11日・ 1月 18日
計	2名	2月7日・ 2月 14日
計	20名	

2014年度 青山保育所 事業報告書

1. 基本理念

聖句「子どもたちを私のところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。」 (マルコ福音書 10:14)

キリスト教理念のもと、愛と祈りを深めつつ、神から委ねられた保育園児の保育を行いました。キリスト教保育同盟に属する保育所として神の愛を土台とした保育を目指しました。

2. 事業目的

キリスト教の愛と真をもって、家庭と家族から祝福される心豊かな保育を行いました。

3. 基本方針

- ① 子どもにとって、毎日が楽しい保育を行います。
- ② 保護者が安心して、日々、子どもたちを預けることのできる保育を行います。
- ③ 地域に根差し、地域と交流する保育を行います。

4. 2014年度の総括

① 食育について。

安全、安心な手作りの給食の提供を行いました。各行事食も園児たちに、行事の意味がより深く理解できるような食事を提供しました。調理内容も園児たちが食事に関心をもてるような、楽しい食育を行いました。カルシウムの摂取量が少ないことが反省ですので、2015年度はカルシウム摂取の増量を目指します。

② 保護者との対応、支援について。

生活苦、外国人家庭、精神疾患など保育に困難を抱える保護者に寄り添い、必要に応じて、相談、面談を所長、主任保育士、担任が行いました。子どもが健やかに成長、生活できるような環境づくりを目指しました。必ず英文の行事資料を作成し、該当する保護者に配布をいたしました。また、保護者への保育への関心を深めていただくために一日保育士体験を実施いたしました。特に子育てに関して、困難を覚えている保護者に対しては、児童家庭課、子育て支援係と密接な連絡・連携を取り合い、園児の健やかな成長を応援しました。

③ 障害児保育について

2014年度の障害児数は、10名でした。そのうち特別児童扶養手当のある園児は2名で、一人は脳性まひ障害、もう一人は言語障害、知能障害、聴覚障害、聴覚障害です。他の8名は、言語障害、です。言語障害と共に他の障害をもつ園児は多動1名、身体障害1名、知能障害1名、ダウン症1名となっています。どう組の脳性まひ障害の園児は、同じクラスの園児と共に大分市ホルトホールで開かれたミュージック・カーニバルを観ました、往復とも公共交通機関を利用して遠足に行きました。他の園児と共に一緒に活動、行動したことは

本人の自信につながり、園児同士の関わりも深まりました。健常児との統合保育は、障害児を特別扱いすることではなく、同じ体験、経験を共有することにより、深められることを実践いたしました。

④ 研修について。

職員の育成、保育能力、技術、保育知識の向上のために研修に参加いたしました。また、園内研修としては、別府大学短期大学部初等教育科科长 阿部敬信教授の指導を毎月一回受けました。障害をもつ園児に対する対応、そして気になる子への保育のあり方については各年齢の保育園児の研究保育について指導を受けました。園内研修においては、他に園児の事故防止のための危機管理としてのヒヤリハット事例の研修を、実施いたしました。

⑤ 年間行事について。

年間行事については、行事の意味とその大切さを子どもたちに教え、楽しみながら行事を体験する機会をもちました。各行事においては、園児たちが実際に参加をし、受け身にならない行事を行いました。また、餅つきなど保護者の協力が得られましたことも感謝でした。まるおひな祭りの飾り付けは、園児自身が行いました。

⑥ 財務について

収入の面では、昨年度の赤字となったことを踏まえ、保育単価の大きい0歳児の確保を重点に置きました。支出の面では、定年退職した正規職員の後には、同職員を週2日勤務のパート職員として補充をし、人件費の圧縮をはかりました。また異動をした正規職員の後もパート職員で補充をいたしました。他のパート職員1名の勤務日数を週5日から週4日へと変更をいたしました。

⑦ 地域との交流について。

地域にある偕楽園、福笑居との交流を深め、敬老のつどい、クリスマス会に参加をいたしました。入居されている方々は、園児たちが演じる歌や踊りに大変感謝をされておりました。地域交流の大切な一環として、地域にある施設の行事参加を大切に行いました。

⑧ 園児の安全指導について。

交通安全指導、避難訓練を毎年行いました。不審者対応訓練については、初めて2014年度から行いました。不審者情報については常に職員間で周知徹底し、園児の安全を図ることを第一としました。警備会社とも連携し、園児の安全確保を最重点課題としています。交通安全については、保護者に園児と手をつなぐことをお願いしています。保育所の周辺道路は自動車の往来が激しく、園児の交通安全の徹底、事故防止が課題です。

2014年度

各種研修会への参加

○大分県保育連合会主催の研修会

- ・ 保育所長研修会 5月29日～30日 小久保次郎別府湾ロイヤルホテル
- ・ 保育のスキルアップ研修会 9月4日～5日 立切那奈 大分県総合社会福祉会館
- ・ リーダー的職員研修会 6月24日～25日 豊島 央 大分市オアシスタワー
- ・ 中堅職員研修会 7月2日～3日 今富聡美 大分県総合社会福祉会館
- ・ 新任職員研修会 4月22日～23日 西 美映 別府湾ロイヤルホテル
- ・ 主任保育士研修会 10月23日～24日 二宮香織 大分市オアシスタワー
- ・ 食育推進研修会 6月2日～3日 渡邊 歩 大分市オアシスタワー
- ・ 乳児担当職員研修会 7月15日～16日 薬師寺 良 大分県総合社会福祉会館
- ・ 大分県保育事業研究大会 1月30日 小久保次郎大分市オアシスタワー
二宮(香織)
永井真由美
二宮孝介
豊島 央

○東部保健所主催の研修会

- ・ 認可保育所栄養士給食会 毎月 永井真由美 別府市東部保健所
- ・ 保育所麻疹等感染症研修会 8月18日 二宮香織 日出町保険福祉センター

○別府大学主催の研修会

- ・ 別府大学付属幼稚園公開保育 12月3日 二宮孝介 別府大学

○大分県認可私立保育園協議会主催の研修会

- ・ 安全研修会 8月28日 後藤亮平
- ・ 気になる子への対応研修会 8月8日 道下鈴奈 大分県教育会館
- ・ 新任職員研修会
- ・ 女性部研修会
- ・ 楽しい遊びの研修会 11月26日 尾原亜紀 別府B-con

○別府市認可私立保育園協議会

- ・ 県外視察 12月14日～15日 多治見敬子 長崎県島原市 精華保育園
- ・ 主任会 毎月 二宮香織 別府ニューライフプラザ

○その他

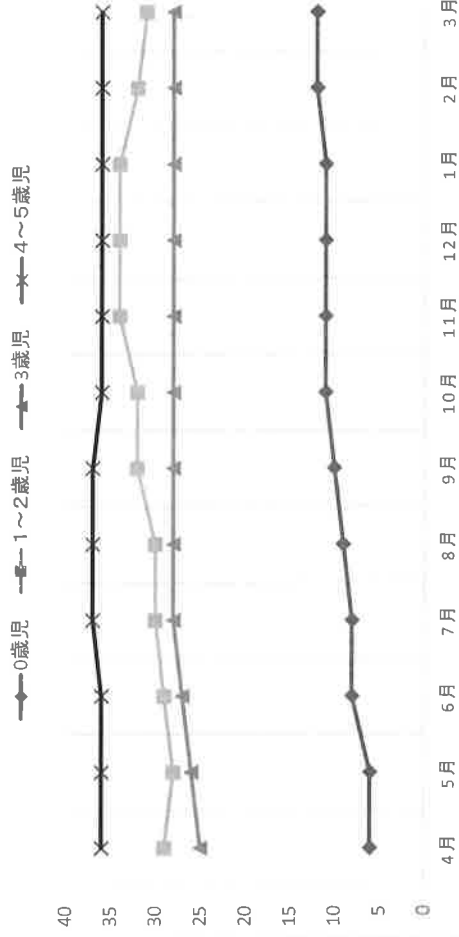
- ・ 子どもの育ちを支える運動シンポジウム 2月16日 道下鈴奈 九州国際会議場 (小倉)
- ・ 保育研究協議会 11月8日 多治見敬子 大分大学教育福祉学部
- ・ 保育技術研修会 8月25日 小野恵里 大分県庁

青山保育所 2014年度 園児推移表

入所児童数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	6	6	8	8	8	9	10	11	11	11	11	12	115
1～2歳児	29	28	29	30	30	30	32	32	34	34	34	32	375
3歳児	25	26	27	28	28	28	28	28	28	28	28	28	330
4～5歳児	36	36	36	37	37	37	37	36	36	36	36	36	435
計	96	96	100	103	104	107	107	109	109	109	109	108	1255

園児推移表



避難訓練 平成26年度 青山保育所

月・種類	4月24日 火災	5月23日 地震	6月30日 火災
発生場所・時間	給食室／10:00	日向灘／10:00	保育室（ぞう）／10:00
避難場所	正門	正門	裏門
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> * 非常ベルの合図がわかる。 * 避難の仕方がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 地震時の避難の仕方、もう一つの避難場所がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 保育士の指示をよく聞いて避難する。
子どもの活動	<ul style="list-style-type: none"> * 合図を聞く。 * 保育士の指示に従って行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 保育士の指示を聞いて安全な場所に避難をする。 	<ul style="list-style-type: none"> * 合図が聞こえたら遊びを止めて指示を聞く。 * 保育士の誘導に従って避難する。
訓練の内容	<ul style="list-style-type: none"> * 非常ベルについて説明する。 * 避難の時の注意事項 * 職員への指導など 	<ul style="list-style-type: none"> * 園庭では、落下物などに気をつけながら、建物より遠くの場所、室内では机の下や押入れの中に身を寄せる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 落ち着いて誘導する。 * 避難場所、避難経路、誘導方法の確認。

月・種類	7月23日 火災	8月19日 火災	9月18日 地震
発生場所・時間	園舎裏倉庫／10:00	園舎北側住宅／10:00	東南海・南海地震／10:00
避難場所	裏門	正門	正門
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> * 戸外遊びの中での避難の仕方がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 担任以外の保育士の指示に従って避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 戸外遊び中の地震時の避難の仕方がわかる。
子どもの活動	<ul style="list-style-type: none"> * 非常ベルがなったら、遊びをやめ保育士の指示を聞く。 * あわてずに避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> * ベルがなったら、近くに居る保育士の指示に従って避難する。 * あわてずに避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 揺れたら、近くに居る保育士の周りに集まる。 * あわてないで、保育士の指示をきく。 * おちついて避難する。
訓練の内容	<ul style="list-style-type: none"> * 水遊びやプール遊びの途中でも避難する。 * 担任以外でも誘導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> * 他のクラスの子どもでもきちんと誘導する。 * 人数確認を必ずする。 	<ul style="list-style-type: none"> * 揺れている時は、建物やフェンスに近寄らないことを話す。 * 保育士はあわてずに子どもを誘導する。

月・種類	10月16日 火災	11月12日 火災	12月10日 地震
発生場所・時間	給食室／11:00	園舎西側施設／10:00	別府湾／10:00
避難場所	正門	裏門	地震時・机の下など 正門
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> * 食事中の避難の仕方がわかる。 * 消火訓練をする(1) 	<ul style="list-style-type: none"> * 隣接した施設から出火した時の避難の仕方がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 自由な遊びの時間での避難の仕方がわかる。
子どもの活動	<ul style="list-style-type: none"> * 食事の途中でもやめて避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 保育士の指示で落ち着いて靴をはいて避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 保育士の周りに集まる。 * 揺れが収まったら保育士の話を聞き、避難する。
訓練の内容	<ul style="list-style-type: none"> * あわてない、はしやスプーンなどを持って行かないことを約束する。 * 初期の消火の仕方がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 表通りは騒然となったている事を想定し、裏通りに非難をする。 * 火災の状況で靴を履いたり、上着を着て避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 安全な場所に身を寄せらる。 * 避難場所の確認。

月・種類	1月14日 火災	2月10日地震・火災	3月10日 火災
発生場所・時間	事務室／10:00	震源地：鶴見山 出火元：給食室／10:00	保育室(うさぎ)／10:00
避難場所	正門	正門	正門
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> * 保育士の指示にしたがい、速やかに避難できる。 * 消火訓練をする。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> * 揺れが収まってから速やかに避難することができる。 * 通報訓練をする。 	<ul style="list-style-type: none"> * 保育士の指示にしたがい、速やかに避難できる。
子どもの活動	<ul style="list-style-type: none"> * 保育士の指示を聞く。 * 走ったりふざけたりしないで避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 揺れている間は、机の下や安全な場所に身を寄せ、治まったたら保育士の誘導で避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 保育士の指示に従って落ち着いて避難する。 * 最後まで話を聞く。
訓練の内容	<ul style="list-style-type: none"> * 消火に当たる保育士、避難をさせせる保育士と役割を理解して動く。 	<ul style="list-style-type: none"> * 保育士は安全を確認しながら子どもを誘導して行く。 * 場合によっては上着を持って行く。 	<ul style="list-style-type: none"> * 保育士は連携をとって安全に誘導する。 * 人数確認を必ずする。

月	日	日にち	研修
4	22日		誕生会
	26日		親子歓迎遠足
5	2日		子どもの日お楽しみ会
	22日		誕生会
6	24日		誕生会
	24日		重度障害センタースポーツ大会参加（5歳児）
7	7日		七夕会
	8日		グループホーム歩夏祭り参加（5歳児）
	19日		保育所夏祭り
	23日		そうめん流し
	25日		誕生会
8	6日		そうめん流し
	22日		誕生会
9	24日		誕生会
	11日		運動会
10	22日		誕生会
	27日		バス遠足
	30日		サンマ祭り
11	1日		別府市千灯明参加（3、4、5歳児）
	19日		誕生会
12	4日		5歳児体験遠足溝部学園ミュージックカーニバル観劇
	6日		溝部学園ミュージックカーニバル観劇；別府（3、4歳児）
	12日		誕生会
	20日		偕楽園クリスマス会参加（5歳児）
	24日		クリスマス会
	26日		もちつき大会
1	20日		誕生会
2	3日		まめまき
	7日		発表会
	19日		誕生会
	21日		保育参観（0、1歳児クラス）
	28日		保育参観（1、2歳児クラス）
3	3日		ひな祭り会
	7日		保育参観（4・5歳児クラス）
	12日		誕生会
	14日		保育参観（3歳児クラス）
	20日		お別れ会
	28日		卒園式

2014年度

事業報告（研修会参加）

青山保育所

月	日にち	研修
4	22、23日	新任研修会（西）
5	29日	保育所所長研修会（所長）
6	2、3日 12日 24、25日	食育推進研修会（渡辺） 健康研修会（竹上） リーダー的職員研修会（豊島）
7	2、3日 15、16日	中堅保育士研修会（今富） 乳児担当職員研修会（薬師寺）
8	8日 18日 25日 28日	気になる子どもへの対応研修会（道下） 保育所麻疹等感染症対策研修会（二宮香織） 保育技術研修会（小野） 安全研修会（後藤）
9	4、5日 12日 17日	保育のスキルアップ研修会（立切） 別府支援学校研究会（二宮香織） 子育て環境セミナー（阿部）
10	23、24日	主任保育士研修会（二宮香織）
11	8日 11日 26日	保育研究協議会（多治見） 感性を育てる研修会（西村） 楽しい遊びの研修会（尾原）
12	3日 14・15日	別大付属幼稚園公開保育（二宮） 長崎県外視察研修（多治見）
1	29・30日	大分県保育事業大会（所長・永井・二宮・豊島・二宮香織）
2	13日 16日	危機管理研修会（所長） 幼児運動シンポジウム（道下）
3		

2014年度

事業報告（園内研修）

青山保育所

月	日にち	研修
4		
5	27日	阿部敬信先生をお招きしての園内研修 議題『各クラスの障がい児・または気になる子どもについて』
6	19日	阿部敬信先生をお招きしての園内研修 議題『青山保育所で起きたヒヤリハット事例』
7	29日	阿部敬信先生をお招きしての園内研修 議題『5歳児研究保育 音・音遊びを通しての表現領域の充実』
8	28日	阿部敬信先生をお招きしての園内研修 議題『4歳児研究保育 音・音遊びを通しての表現領域の充実』
9	26日	阿部敬信先生をお招きしての園内研修 議題『障がい児・気になる子ども運動会の参加の仕方について』
10	23日	阿部敬信先生をお招きしての園内研修 議題『3歳児研究保育 音・音遊びを通しての表現領域の充実』
11	21日	阿部敬信先生をお招きしての園内研修 議題『2歳児研究保育 音・音遊びを通しての表現領域の充実』
12		
1	22日	阿部敬信先生をお招きしての園内研修 議題『1歳児研究保育 音・音遊びを通しての表現領域の充実』
2	26日	阿部敬信先生をお招きしての園内研修 議題『0歳児研究保育 音・音遊びを通しての表現領域の充実』 議題『ヒヤリハット事例のその後・確認』
3	17日	阿部敬信先生をお招きしての園内研修 議題『26年度園内研修まとめと保育課程表現の見直し』

2014 年度 事業報告（実習生・高校生インターンシップ・中学生職場体験受け入れ）
 青山保育所

月	日	研修
4		
5		
6	9日～20日	山口学芸大学1名（廣瀬薫子さん）
7	7日～11日 23日～24日	別府支援学校インターンシップ1名 別府商業高校インターンシップ8名
8	4日～6日 18日～28日	別府青山高校インターンシップ10名 別府短期大学初等教育科2名 （萱島竜也さん・湯前さやかさん）
9	1日～11日 1日～5日 3日～5日	別府短期大学初等教育科1名（安東 愛弥香さん） 溝部学園インターンシップ1名（遠嶋将太さん） 別府鶴見台中学校職場体験8名
10	20日	別府青山中学校ふれあい学習40名
11		
12	4日	青山中学校保育体験学習40名
1	27日	青山中学校職場体験7名
2	9日～20日	別府短期大学初等教育科3名 （佐藤絵理さん・石崎唯さん・川邊翔真）
3		

H26. うさぎ組食育年間指導計画 青山保育センター

<0歳児>

食育年間目標

- ◎ 安定した生活リズムができ、喜んでミルク（牛乳）を飲んだり、離乳食を食べたりする。
- ◎ 様々な食材を見たり、触ったり、匂いをかいだりすること
年間を通して経験させてあげたいこと
 - ・ バナナ、りんご、なし、みかん、スイカ、メロンなどの果物の実物を見せ、目の前で皮をむく様子を見せる。
 - ・ ホットケーキやお好み焼き、チヂミなどのおかわり分をうさぎ組で焼き、（ホットプレート使用）その過程を見たり、出来たてのものを食べたりする。
 - ・ おでんやスープなど、鍋からゆげが出ている様子を見せたり、そのゆげの匂いをかぎ、その場でつぎわけたりする。
 - ・ 行事食に関しても、ケーキなど大きなものを切り分けたり、トッピングの様子を見せ、視覚的に見る楽しみや、食べたい！と思う意欲を湧かせていくようにする。
 - ・ (後半出来れば・・・) プランターの野菜や果物の実物を見せ、触ったり、間近で匂いをかいだりする体験ができるようにする。

※ 0歳児に関しては、厳密に計画をたてていくのは難しいが、子どもたちの離乳食の進み具合に合わせていきながら、実際のものを見る、触れる、匂ぐ、味わう、などの体験を出来るだけ多く経験させてあげたいと思う。

月	活動内容	ねらい	環境
5	・バナナジュースを作るのを見たり飲んだりする。	・バナナの皮がむける様子を見たり、できたてのジュースを飲む。	保育室 ・ミキサー
7	・丸ごとのスイカを見たり、触ったりする。	・実物のスイカに触れたり、切り分ける様子を見る。	保育室
9	・秋の果物を食べる。 (梨・りんご・ぶどう・みかん等)	・果物の実物に触ったり、皮をむく様子を見る。	保育室
12	・餅つきに参加する。	・餅つきの様子を見たり、出来たてのお餅（刻み）を食べることが出来る。	園庭
1	・クリスマスケーキを食べる。	・丸ごとのクリスマスケーキを見たり、ケーキカットを見たりして喜んで食べる事ができる。	保育室
1	・温かいスープやおでんをつぎわけてもらい、食べる。	・鍋から出るゆげの匂いをかぎ、「食べたい」という意欲を湧かす。	

※上記以外にもホットプレートで焼く作業や、プランター栽培の野菜を見せるなど、子どもたちの状況や、次月のメニューに応じて取り入れていく予定。

○年間目標 ・色々な食べ物に五感を通して関心を持って、自ら進んで食べようとする。

○配慮事項 ・季節の旬の食材（スイカ、バナナ、リンゴ、みかんなど）を丸ごと見たり触ったり匂いを嗅いだりする機会を設けたり、保育室で切り分けて食べたりする。

・行事食や季節のメニュー（素麺流し、サンマ祭り、焼き芋など）の時は、全園児が園庭で食べる様子を見たりして参加する。

・プランター栽培をしている野菜（トマト、きゅうりなど）を見学する。

・ホットケーキ、どら焼き、焼きそば、焼きうどん、お好み焼き、チヂミなどのメニューの時はおかわり分を保育室内でホットプレートで温めて、匂いを嗅いでもらい温かい物を食べてもらうようにする。

平成26年度 食育計画 うさぎ組 (1歳児)

青心保育科

月	活動	ねらい	環境
5月	<ul style="list-style-type: none"> バナナジュースを作るのを見たり飲んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> バナナの皮をむいたり、ジュースを飲んだりできる。 	保育室 ・ミキサー
6月	<ul style="list-style-type: none"> キュウリの収穫を見たり、触ったりする。 トウモロコシに触ったり皮をむいたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> キュウリの表面触ってみる事ができる。 手伝ってもらい、手触りを実感したり皮をむいたりする事ができる。 	保育室 ・プランター 保育室
7月	<ul style="list-style-type: none"> 丸ごとのスイカを触ったり切り分けのを見たり、スイカ割りをするのを見たりする。 素麺流しに参加する。 かき氷を食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 触ったり表面をたいたりして関心を持つ。 桶の中の素麺をすくってもらって食べる事が出来る。 蜜をかけてもらい、美味しく食べる事が出来る。 	保育室 園庭 ・木製の桶 保育室
8月	<ul style="list-style-type: none"> トマトの収穫を見たり、触ったりする。 ところてんを突く様子を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫するのを見たり、触ったりすることができる。 	保育室 ・プランター
9月	<ul style="list-style-type: none"> 梨やブドウを食べる。 サンマ祭りに参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 梨やブドウを丸ごと見たり触ったり食べたりする。 サンマが焼けるのを見たり、美味しく食べる事が出来る。 	保育室 園庭
10月	<ul style="list-style-type: none"> リンゴを食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> リンゴを丸ごと見たり触ったり食べたりする。 	保育室
11月	<ul style="list-style-type: none"> 焼き芋を食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> できたての温かい焼き芋を食べる事が出来る。 	テラス
12月	<ul style="list-style-type: none"> 餅つきに参加する。 クリスマス会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 餅つきを見たり、保育者と一緒に杵を持って餅つきをする事が出来る。 丸ごとのクリスマスケーキを見たり、ケーキカットを見たりして美味しく食べたりする。 	園庭 保育室 保育室
1月	<ul style="list-style-type: none"> 七草粥を食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 七草粥をみんなで楽しく食べる。 	保育室

2月	・節分行事に参加する。	・節分ランチ、または恵方巻を食べる。	保育室
3月	・お楽しみ会に参加する。 ・園庭で給食を食べる。	・お楽しみ会ランチを食べる。 ・園庭でみんな楽しんで食べる事が出来る。	保育室 園庭 ・大きめのブルーシート

その他

○キュウリやトマトだけではなく、プランター栽培しているほかの野菜やイチゴなども収穫する様子を見学できる時は見せていきたい。

○ぱんだ組の1歳児がクッキングする時は、一緒に経験させてあげたい。

- ・ 11月…スイートポテト作り
- ・ 12月…クッキー作り
- ・ 3月…フルーツポンチ作りなど

食育計画表 ぱんだ組 (1,2歳児)

年間のねらい

青山保育所

	一歳児	二歳児
1期	ゆったりとした雰囲気の中で手づかみやスプーンフォークを使って自ら食べようとする。	新しい環境に慣れ、食事を楽しんだり、自分から食べようとする。 箸を使って食べようとする。 よく噛んで食べる事を知らせてもらう。
2期	それぞれの発達に応じて手づかみで食べた り、スプーンやフォークを使って食べる事が 出来る。 保育士に促されてよく噛んでたべようとする。	正しい箸の持ち方が分かる。 食材に関心を持つ。 器に手を添えて食べる事を知らせてもらう。
3期	それぞれの発達に応じてスプーンやフォーク を使って食べる事が出来る。	箸を正しく持って食べようとする。 器に左手を添えて食べようとする。 よく噛んで食べる事が出来る。
4期	おのおの食べられる量を残さず食べ、達成 感をあげよう。	箸を正しく持って食べて食べる事が出来る。 器に左手を添えて食べる事が出来る。 よく噛んで食べる習慣を身につける。

栽培計画表

月	子どもの活動
5～8	・以上児の苗を植える様子や、植えた野菜の生長を見る。 (ミニトマト、ピーマン、キュウリ、トマト、ナス)
9～11	・トマト、キュウリの余りを収穫し、食べる。(可能であれば)
12～3	・植えている野菜の生長を見る。 ・二十日大根を植え、収穫して食べる。

クッキング計画

月	活動内容	ねらい
6	・シソジュース作り	・保育者が作る様子を見たり、ジュースを飲んだりしてシソに興味を持つ。
8		
9		
10	・ご飯作り	・ご飯を研いだり、目の前でできたご飯のおいしさを感ずる。
11	・スイートポテト作り	・保育者と一緒にサツマイモをつぶしたり器に盛ったりしてスイートポテトを作り、出来立てのおいしさを感ずる。
12	・クッキー作り	・保育者と一緒に型抜きなど出来る部分を手伝ってクッキー作りを楽しみ、出来立てのおいしさを感ずる。
1		
2		
3	・フルーツポンチ作り	・白玉を丸めたり、好きなフルーツを入れたりしてフルーツポンチ作りを楽しむ。

※開いているところで給食の手伝い(皮むきや洗ったりなど)なども行っていきたい。

午後のおやつでも室内で出来るものは室内で作って見せて、出来上がるまでを見たり、出来上がるのにおいをおいさしたりして出来立てを食べさせたい。

ねらい

きりん組食育計画 (3歳児)

青山保育所

- 食育 (野菜の栽培やクッキングなど) の経験を通して、育てることに喜びを感じたり、食べ物に感謝する気持ちを育む。
- 食事中のマナーを知り、食生活に必要な習慣や態度を身につける。
- 食べることにへの意欲をもち、楽しく食事をすることが出来る。

野菜の苗植え・収穫	クッキング
春 (4, 5月)	5月・・・トマトの苗植え
夏 (7, 8月)	7, 8月・・・トマト収穫
秋 (9月～)	月・・・芋掘り
冬 (12月～)	
ねらい・野菜をちぎったり、収穫したトマトを入れてサラダ作りを楽しむ。	ねらい・お月見の由来を知り、興味を持って団子作りをする。
ねらい・トマトサラダ作り (野菜をちぎる)	ねらい・おにぎり作り
ねらい・クッキー作り	ねらい・ラップを使っておにぎりを作る事が出来る。
2月・・・クッキー作り	ねらい・生地をのばしたり、型抜きやトッピングを入れ楽しんでクッキー作りをする。
3月・・・カレパレード	ねらい・きのことさいたり、たまねぎの皮むきなど簡単なクッキングを楽しんでお友達と一緒にする。

○年間目標

- ・調理をしてくれた人への感謝の気持ちをもち、あいさつ、姿勢など気持ちよく食事をするマナーを身につける。
- ・健康と食べ物との関係や食材の色、形、香りなどに興味をもつ。
- ・栽培から収穫までの経験を通して生命の大切さを知る。

<プランター栽培の計画>

野菜の苗植え、収穫	5月・・・グリーンピースの収穫 ピーマン苗植え	7月・・・ピーマンの収穫	(王うれん草) 植え	(王うれん草) 収穫	冬 (12月～)
-----------	----------------------------	--------------	------------	------------	----------

<クッキングの活動の計画>

活動	ねらい	5月 豆ご飯を食べよう	・グリーンピースを収穫したり、皮をむいたりして出来立ての豆ご飯を食べる。	夏 (7、8月) 7月 夏野菜カレーを作ろう	・育てたピーマンを収穫し、材料(野菜)を洗ったり、皮をむいたりして友達と一緒にカレーを作ることが出来る。	9月 月見団子を作ろう	・お月見の意味を知り、友達と一緒に粉をこねたり、丸めたりしてお団子を作ることが出来る。
----	-----	----------------	--------------------------------------	------------------------------	--	----------------	---

12月	クリスマスクッキーを作る	<ul style="list-style-type: none"> • 友だちと一緒に材料を混ぜたり、伸ばしたりして生地を作ったり、自分の好きな型を抜いたりしてクッキー作りを楽しむ。
2月	バレンタインチョコを作る	<ul style="list-style-type: none"> • 友だちと一緒にチョコレートを溶かしたり、型に流し込んでトッピングしたりしてチョコ作りを楽しむ。
3月	うどんを作る	<ul style="list-style-type: none"> • 友だちと一緒に粉をこねたり、踏んだりして生地作りをして手作りうどんを作って出来立てを味わう。

- ねらい
- ・食事の大切さを知り、生活の営みがわかる。
 - ・食べ物と体の関係に関心を持ち、健康的な生活をする。
 - ・生活や遊びの体験を通し、五感を育てる。

クッキングのねらい

- ・食事の持つ意義を知り、心身と食べ物の関係について関心をもつ。
- ・体作りのための料理を知らせる。
- ・一つの目標に向かって、協力と役割分担ができる。
- ・子どもが使える道具を通して、安全や衛生面での態度を養う。
- ・自分で育てた野菜を収穫し、調理して食べる体験を通して、食べ物を大切にすることを育つ。

クッキング予定

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
		給食の手伝い (野菜下ごしらえ体験)	自分で育てた野菜を調理 (カレールイス)	ご飯を作ろう	スイートポテトまたは石垣餅	年越しうどん					振る舞いクッキー

クッキングで作りたい物

- ・主食を作る(主食を食べられない子が見られるので美味しさを伝える。ごはん、うどん等)
- ・手作りおやつの手伝い、調理体験(クッキー、クッキー、肉まん等)
- ・行事のおやつ作りの手伝い、給食の手伝い
(行事を通して日本の風習を知る、給食の先生の仕事を知らる。)

野菜の栽培

- 5月→ナス、トマト、キュウリ栽培 → 7, 8月→収穫、調理
- 5, 6月→サツマイモ苗植え予定 → 11月→収穫、調理
- 10月→大根栽培予定 → 2月→収穫、調理または持ち帰り

○カレールイス

- ・夏祭り後で自分たちの育てた野菜でカレールイスを作りたい。
- 振る舞いクッキー
- ・卒園前にお世話になった先生たちにクッキーを作って感謝の気持ちを伝える。

年間目標

- ・食事の大切さを知り、生活の営みがわかる。
- ・食べ物と体の関係に関心を持ち、健康的な生活をする。
- ・生活や遊びの体験を通し、五感を育てる。

	野菜の苗植え、収穫	クッキング
春(4, 5, 6月)	5月→トマト、ナス、キュウリの苗植え 7月→夏野菜の収穫	6月→野菜の皮むき、カット体験 7月→自分で育てた野菜を調理(野菜スティック、カレーライス) 9月→炊飯体験
夏(7, 8, 9月)		
秋(10, 11, 12月)	10月→大根種まき	11月→スイートポテトまたは石垣餅作り 12月→年越しうどん作り
冬(1, 2, 3月)	2月→大根収穫	2月→収穫した大根調理 3月→振る舞いクッキー作り

クッキングで作りたい物

- ・自分たちで育てた野菜の調理体験
- ・主食を作る(主食を食べられない子が見られるので美味しさを伝える。ごはん、うどん等)
- ・手作りおやつの手伝い、調理体験(ケーキ、クッキー、肉まん等)
- ・行事のおやつ作り体験
(行事を通して日本の風習を知る、給食の先生の仕事を知る。)

2014年度（平成26年度）野口保育所 事業報告

1、基本方針

平成25年度は、保育所保育指針をもう一度見直し、その内容をしっかりと理解し、「保育所保育」の実現に向けて、保育を展開していく。

その中で「一人一人を大切にする保育」という意味を職員全体で理解し、具体的に形にしていくことで、子どもの最善の利益と保護者の子育て支援を確立する。

食に関しては、給食材料の管理を徹底し、保護者に対して情報の提供をしっかりと行う。また園内での菜園、行事でのキッチン、園外での芋掘り体験のなど、野菜を育て、収穫し、調理をして食べるといった実体験を経験させることで、食に関心をもち食を通して自分の体を守る、自分を大切にする、命のつながりを知る、など毎日人間にとって欠かせない食を通して食育の推進をさらに図っていく。

現在の保育を充実させる一方、園舎改築の構想、具体的な設計を計画し、園舎建替えに向けて検討を進めていく。

2、保育目標

- ・子どもにとって毎日が楽しい保育
- ・食育を通して楽しい食事をする保育
- ・保護者が安心して預けられる保育
- ・地域との交流を大切にする保育

3、2014年度の事業の総括

①保育について

- ・大きなけがをすることもなく、それぞれのクラスにおいて、年間の保育計画に基づいて保育することができた。

②障害児保育について

- ・26年度は、自閉症スペクトラム障害、ダウン症知的障害、の行政が認定する障害児を保育した。対象児が通院している関係機関と密に連絡や会議を重ねていったことで、障害児に対しての細かくまた適切な保育が行われた。また、認定されていない気になる児童についても、関係機関と連絡をとり、保育のアドバイスを受けることで、対象児が楽しくまた快適に保育を受けられる環境を整えることができている。

③食育について

・年間の計画通りに実施出来た。特に毎年恒例の芋堀では、農業文化公園の農園を借りて子ども達と一緒に栽培、収穫、調理と一つの食材に関わりながら食育につなげることができた。
子ども達は食べることはもちろん、食材や調理などに興味関心を持つようになり、食育の効果がみられた。

④年間行事について

・当初計画していた行事を全てこなすことができた。ただこなすだけでなく、一つ一つの行事に全ての子どもたちがどうかかわれるのか、全員が楽しめるのか、どう成長できるのかを計画段階で職員全員でしっかりと協議して取り組むことが出来た。その結果子ども達の行事に対する期待感や満足感が表情や態度、言葉などで確認することが出来、保護者からも感想等で行事に対しての良い評価を頂くことができた。今後も普段の保育と並行して行事にも力を注いでいきたい。

⑤保護者支援について

・保育園の使命の一つとして、保護者支援、家庭支援があげられるが、26年度においては別府市からの認定を受けた要保護児童対策の家庭が二家庭あり、児童家庭課や発達医療センターなど関係機関と密に連絡を取り合いながら、対象の家庭と個別面談を重ね、子どもの養育についてや、就労支援などの十分な支援を行った。その結果、母親の就労につながり、子どもの生活が安定するようになったことで、落ち着いた園生活、家庭生活を送れることになった。
しかし、ある家庭では子どもの発達の遅れに伴って家庭での養育が困難になり、外部からの通報で児童相談所に連絡が行く事がたびたび起こり、その都度関係機関と協議しその家庭の見守りや支援を行ってきたが、まだまだ援助が必要な状況で今後も関係機関と協力して保護者支援を行っていきたい。

⑥地域との交流について

・26年度は、夏祭り、敬老のお楽しみ会、餅つき等の行事にお誘いして、保育所との関わりを深めていく計画だったが、夏祭りに関しては、食券をお配りしたこともあり若干の参加者があったものの、他の行事に関しては、人がなかなか集まらなと理由から参加を辞退された。
今後、これからの社会福祉施設は地域との密着が求められるので、行事だけでなく普段から地域と関わりが持てるような取り組みが必要だと感じている。

⑦職員の資質向上

・各団体の研修会に積極的に参加し、専門職として更なる個々のレベルを上げていく事に計画して実施した。また、研修結果を会議で発表し、共通認識として理解を深めることが出来た。

⑧園舎改造・改築計画

・子どもの数が減っていく中で、野口保育所単体ではなく、法人の施設としてどう考えていくかと言うことをもっと具体的に考えていく必要があり、今後早急な検討課題として考えて行きたい。

4、2014年度入所児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	3	4	5	4	5	6	8	8	8	8	8	9	76
1・2歳児	28	29	29	29	29	30	30	29	29	29	29	29	349
3歳児	18	18	18	18	17	16	18	18	18	18	18	18	213
4歳児以上	15	15	15	15	15	14	15	15	15	16	16	16	182
合計	64	66	67	66	66	66	71	70	70	70	71	71	820

5、行事内容

月	行事内容
4月	・入所式 ※保護者参加
5月	・親子遠足 ※保護者参加 ・子どものお楽しみ会
6月	・内科検診・歯科検診
7月	・保育参観・芋の苗植え ・七夕祭り
8月	・夏祭り ※保護者参加
9月	・敬老の日のお楽しみ会 ※保護者参加 ・お月見会
10月	・運動会 ※保護者参加
11月	・親子バス遠足 ※保護者参加 ・内科検診・歯科検診

12月	<ul style="list-style-type: none"> ・もちつき ・クリスマス会
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会 ※保護者参加 ・たこあげ大会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観（節分豆まき） ※保護者参加
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・雛まつりのお楽しみ会 ・遠足 ・お別れ会 ・卒園式 ※保護者参加

※毎月1回誕生会開催

6、研修会参加状況

研修会名	期日	開催地	参加者	職種
食育推進研修会	6月2日3日	大分市	渡辺潤子 渡辺智子	調理員等 保育士
九州三団体青年部研修会	6月10日11日	大分市	本庄	施設長
第1回保育コーディネーター養成研修	6月26日	大分市	工藤	主任保育士
保育新制度セミナー	7月2日	北九州市	本庄	施設長
第一回幼保小連携推進協議会	7月8日	別府市	末吉	保育士
乳児担当職員研修会	7月15日16日	大分市	秋好	保育士
九州三団体研究大会	7月23日～25日	福岡市	本庄	施設長
第2回保育コーディネーター養成研修	7月29日	別府市	工藤	主任保育士
第3回保育コーディネーター養成研修	8月12日	大分市	工藤	主任保育士
保育のスキルアップ研修会	9月4日5日	大分市	三澤	保育士
特別園長研修会	9月10日	大分市	本庄	施設長
第4回保育コーディネーター養成研修	9月17日	別府市	工藤	主任保育士
保育所長専門講座プログラム2	10月6日～8日	東京都	本庄	施設長
第5回保育コーディネーター養成研修	10月14日	別府市	工藤	主任保育士
主任保育士研修会	10月23日24日	大分市	工藤	主任保育士
感性を育てる研修会	11月11日	別府市	末吉・川本	保育士
楽しい遊びの研修会	11月26日	別府市	高橋・安倍	保育士
第6回保育コーディネーター養成研修	11月28日	別府市	工藤	主任保育士

別府市認可私立保育園協議会県 外視察研修	12月14日15日	長崎島原	干潟 渡辺潤子	保育士 調理員
大分県保育事業大会	1月8日9日	大分市	干潟・平野	保育士・栄養士
子どもの育ちを考えるシホ・ジウム	2月16日	北九州市	本庄	施設長
児童発達支援員養成研修Ⅰ	2月18日	別府市	工藤・帆秋	主任保育士 保育士
別府市認可私立保育園協議会研 修会	2月25日	別府市	施設長他6 名	施設長 主任保育士他

7、避難訓練実施状況

月	訓練内容	想定場面	避難場所
4	火災訓練	給食室からの出火	第二避難場所（玄関）
5	火災訓練	事務室からの出火	第一避難場所（裏門）
6	不審者	不審者の施設内侵入	第二避難場所（玄関）
7	地震訓練	別府湾	第二避難場所（玄関）
8	火災訓練	園舎北側住宅からの出火	第一避難場所（裏門）
9	地震訓練	東南海・南海地震	園庭中央→第一避難場所
10	火災訓練	給食室からの出火	第一避難場所（裏門）
11	火災訓練	園舎西側マッシュョンからの出火	第一避難場所（裏門）
12	地震訓練	日向灘沖地震	第二避難場所（玄関）
1	火災訓練	事務室	第一避難場所（裏門）
2	地震・火災訓練	鶴見山噴火	第一避難場所（裏門）
3	火災訓練	保育室（みかんぐみ）	第一避難場所・第二避難場所

※2月は総合訓練として、別府消防署員立合の下、避難訓練を実施。
 署員よりの確なアドバイスを受ける。

Table with columns for month (月), activities (行事), activity content (活動内容), ingredients (旬の食材), and food items (食育目標). Rows cover months from April to December, detailing various food-related activities and seasonal ingredients.

月1	月2	月3
<p>○誕生会 ○たこあげ</p> <p>○誕生会で給食の先生からの話を聞 く ○七車がゆを食へる ○餅つきに参加する ○出張おやつ ○クッキンク: ぼたもち</p> <p>○日本の文化を知ろう</p>	<p>○誕生会 ○原参観 ○町分</p> <p>○クッキンクで食への関心に なげよう</p> <p>○誕生会で給食の先生からの話を聞 く ○出張おやつ ○クッキンク: ケーキ作り(以上児)</p>	<p>○誕生会 ○ひまわり参 ○卒園式</p> <p>○楽しい思い出をつくらう</p> <p>○クッキンク: ケーキ— (未満児) ○クッキンク: ぼたもち ○出張おやつ</p> <p>○誕生会で給食の先生からの話を聞 く ○クッキンク: ケーキ作り(以上児) ○クッキンク: ケーキ作り(以上児)</p>
<p>○七車と参観にみんなだるまを昇り使ったりする。 ○誕生会を体験し、みんなで楽しむ。 ○七車と参観にみんなだるまを昇り使ったりする。 ○誕生会を体験し、みんなで楽しむ。</p> <p>○七車のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。</p> <p>○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。</p>	<p>○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。</p> <p>○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。</p> <p>○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。</p>	<p>○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。</p> <p>○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。</p> <p>○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。 ○誕生会のお話を聞いて、七車がゆを食へる。</p>

食 育	食を営む力の基礎	○ゆったりとした雰囲気の中で、抱っこしたり、やさしくほほえみかけたり、話をかけてもらいたいなを使って、自分から食べようとする。	○楽しい雰囲気の中で、友達と一緒に食事することを喜ぶ。	○楽しい雰囲気の中で様々な食べ物ですんで食べるようになる。(手洗いやかいなど)に気をつけ守る。	○楽しく食事をする為の必要な事	○調理をしてくれた人への感謝の気持ちを持ち、気持ちよく食事をする。スナックを身につける。	○健康と食への物の関係や食材の色、形、香りなどに興味をもつ。
		○健康発育発達状態の把握 ○家庭生活、養育状態の把握 ○内科、歯科検診(年2回) ○異常が認められた時の対応	○施設内外の設備、用具等の清掃、消毒、安全管理及び自主点検 ○全職員の後援(年2回) ○未満児ケア、調理員の後援(毎月)	○毎月の避難訓練(火災・地震・不審者) ○年2回の消防器具等の点検	○園児等の発行 ○日々の連絡帳でのやりとり	○園内研修 ○園外の研修(市内、県内) ○市内私立保育園の共同研究会	○保育者との連携 ○園内研修 ○園外の研修(市内、県内) ○市内私立保育園の共同研究会